

第6章 介護支援専門員調査

(報告書案)

1 介護支援専門員本人の状況

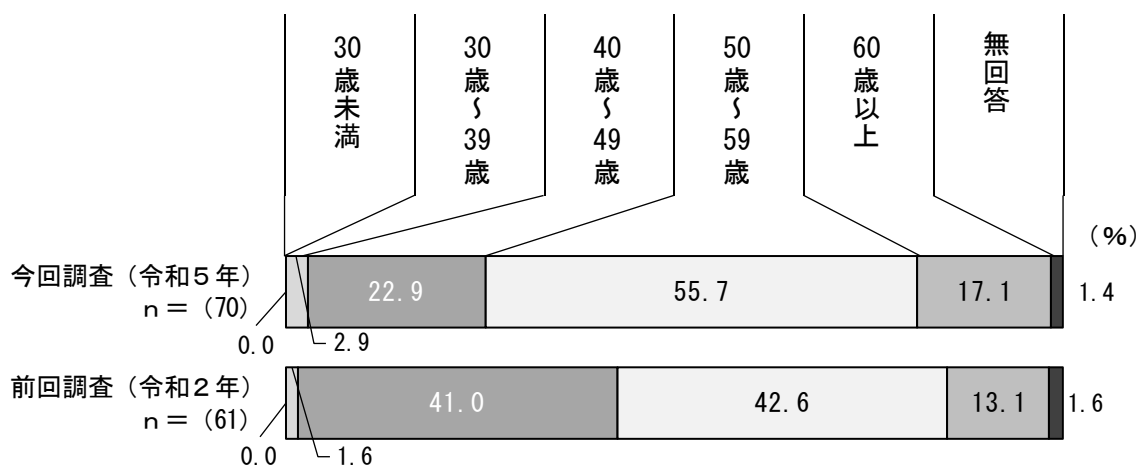
問1 本人の状況について教えてください

(1) 年齢

回答した介護支援専門員の年齢は、「50歳～59歳」が55.7%で最も多く、次いで「40歳～49歳」(22.9%)、「60歳以上」(17.1%)、「30歳～39歳」(2.9%)が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「50歳～59歳」が13.1ポイント増加している一方、「40歳～49歳」は18.1ポイント減少しています。

【年齢】

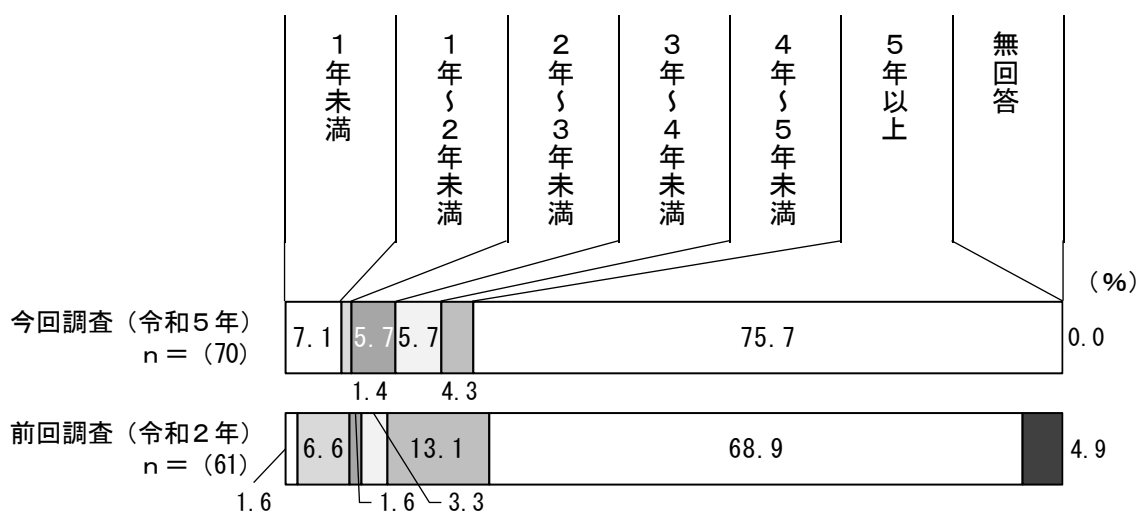


(2) 介護支援専門員としての業務経験年数

介護支援専門員としての業務経験年数は、「5年以上」が75.7%で最も多く、次いで「1年未満」(7.1%)等が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「5年以上」が6.8ポイント、「1年未満」が5.5ポイント増加している一方、「4年～5年未満」が8.8ポイント減少しています。

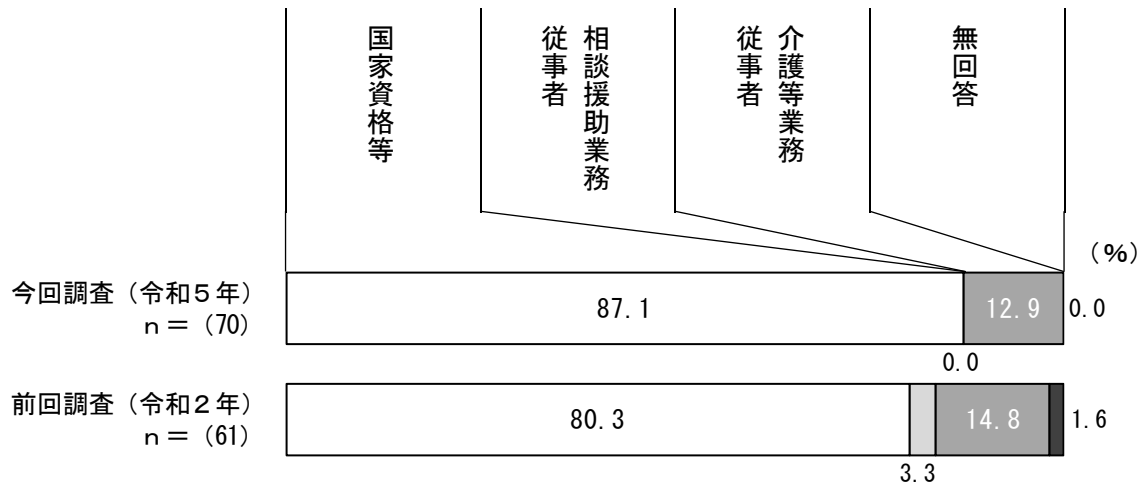
【介護支援専門員としての業務経験年数】



（３）介護支援専門員を受験した際の基礎資格

介護支援専門員を受験した際の基礎資格は、「国家資格等」が 87.1%で最も多く、次いで「介護等業務従事者」（12.9%）が続いています。

【介護支援専門員を受験した際の基礎資格】

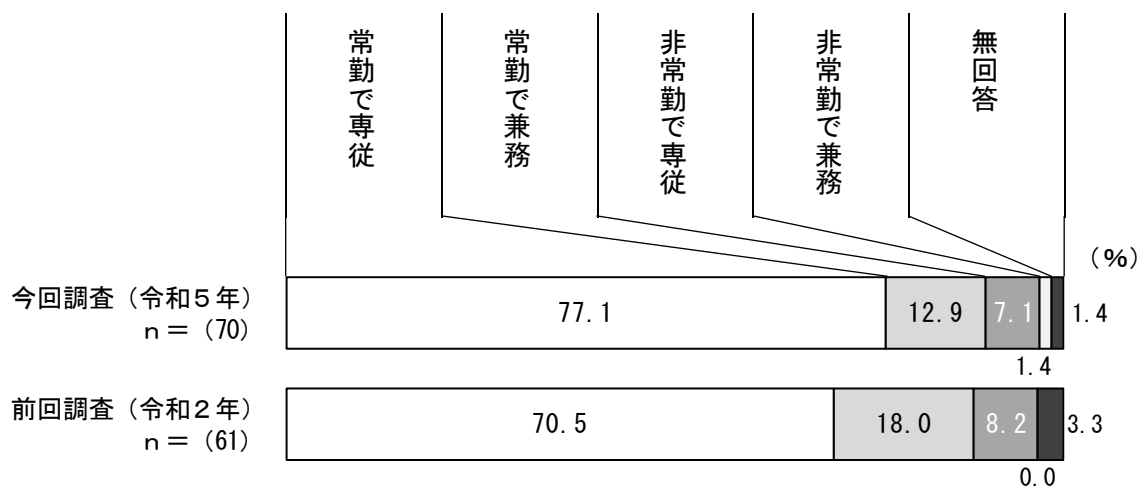


（４）就業業務形態

就業業務形態としては、「常勤で専従」が 77.1%で最も多く、次いで「常勤で兼務」（12.9%）等が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「常勤で専従」が 6.6 ポイント増加しています。

【就業業務形態】

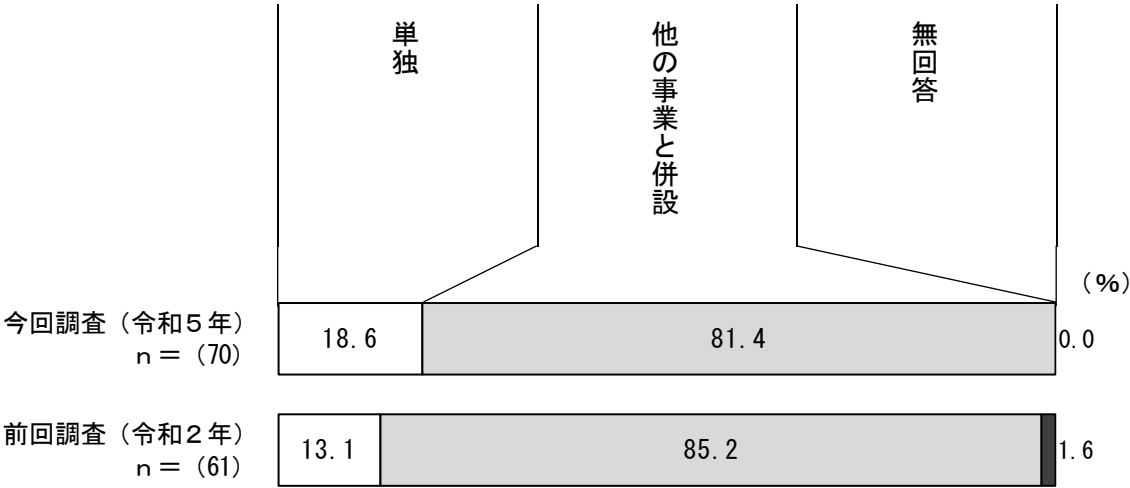


(5) 事業所の業務形態

事業所の業務形態としては、「他の事業と併設」が 81.4%で最も多く、次いで「単独」(18.6%)が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「単独」が 5.5 ポイント増加しています。

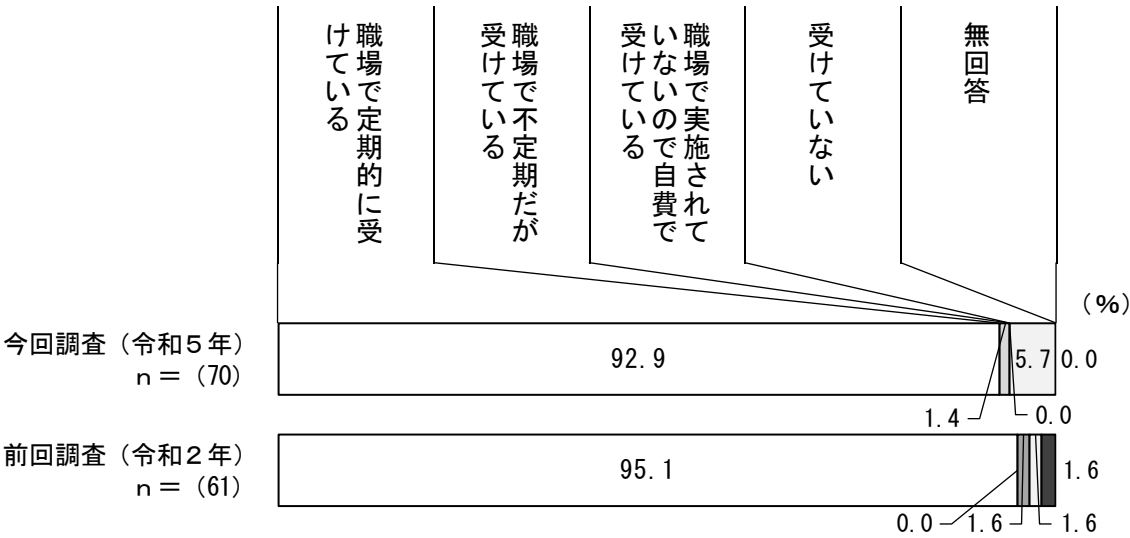
【事業所の業務形態】



(6) 健康診断受診状況

健康診断の受診状況は、「職場で定期的に受けている」が 92.9%で最も多くなっています。

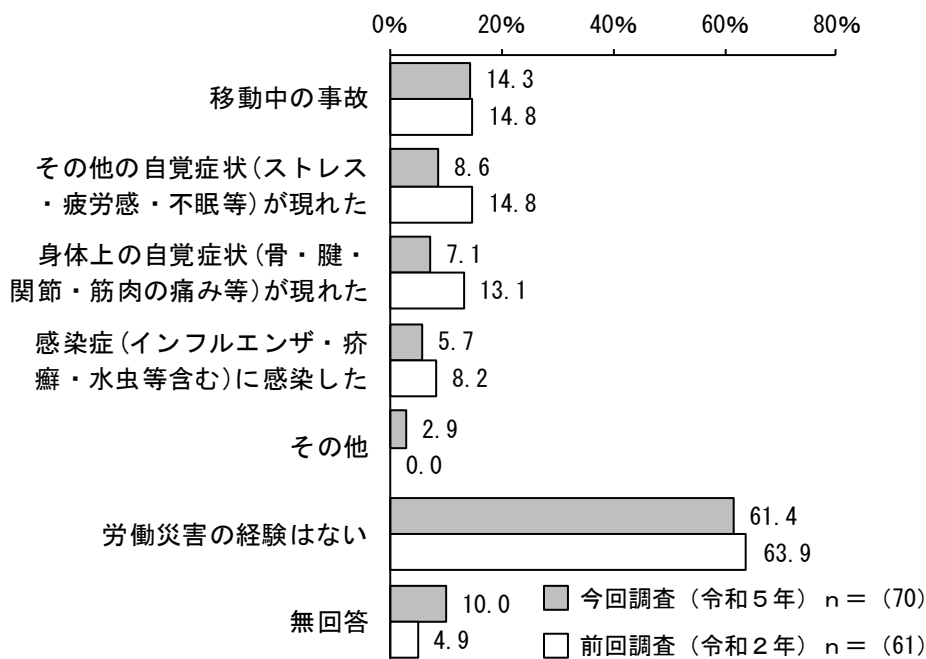
【健康診断受診状況】



（7）労働災害の経験

労働災害の経験としては、「労働災害の経験はない」が 61.4%で最も多く、次いで「移動中の事故」(14.3%)、「その他の自覚症状（ストレス・疲労感・不眠等）が現れた」(8.6%) 等が続いています。

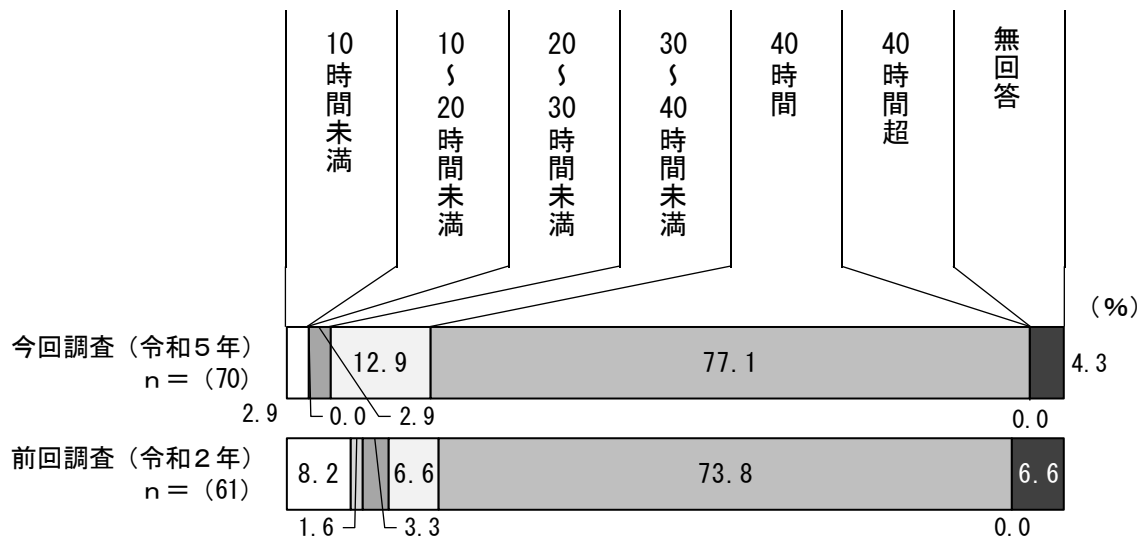
【労働災害の経験】（複数回答）



（8）週の所定労働時間

週の所定労働時間は、「40 時間」が 77.1%で最も多く、次いで「30～40 時間未満」(12.9%) 等が続いています。

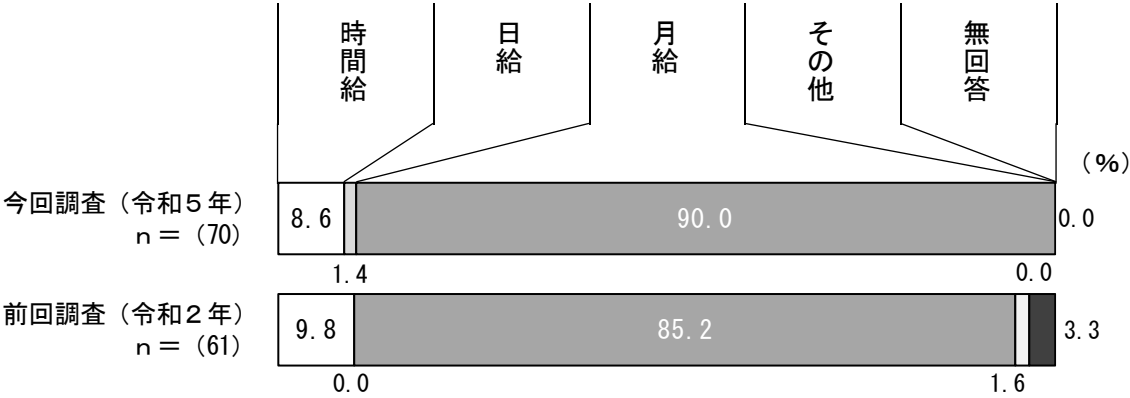
【週の所定労働時間】



(9) 賃金の支払形態

賃金の支払形態は、「月給」が 90.0%で最も多く、次いで「時間給」(8.6%) 等が続いています。

【賃金の支払形態】



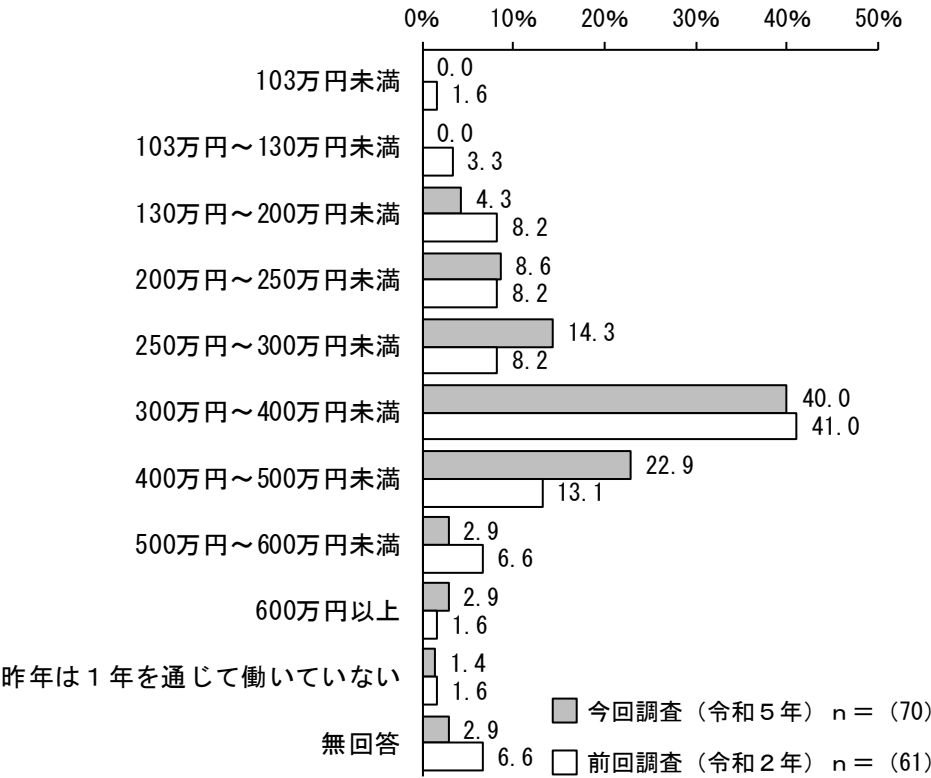
	回答者数	最大金額	最小金額	平均金額
時間給（１時間当たり）	５人	１,５００円	１,３７０円	１,４３４円

※ 「日給（１日当たり）」は、賃金単価の回答がなかったため掲載を省略

(10) 令和４年中の収入

令和４年中の収入（賞与及び残業・諸手当等を含む）は、「300 万円～400 万円未満」が 40.0%で最も多く、次いで「400 万円～500 万円未満」(22.9%) 等が続いています。

【令和４年中の収入】



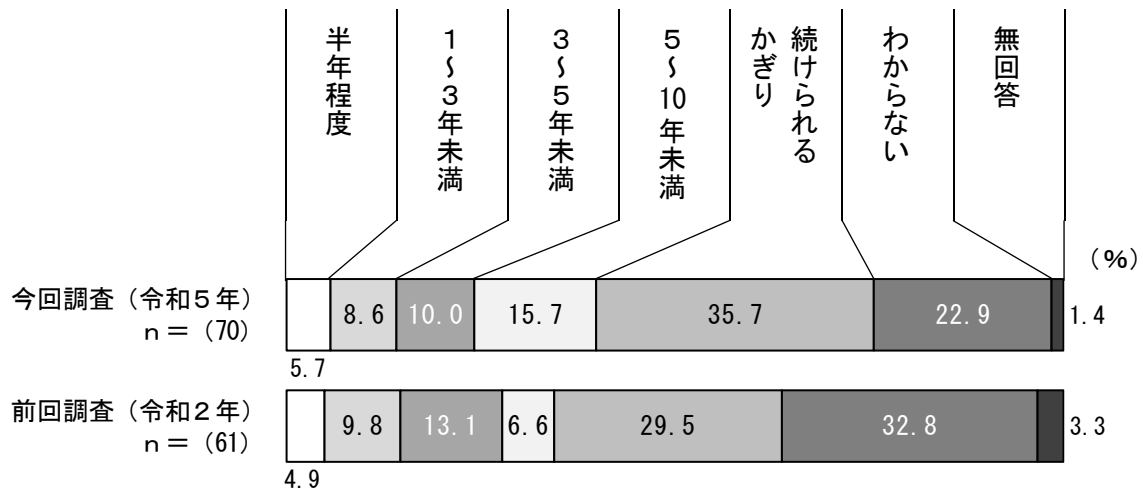
(11) 現在働いている事業所での就労意向

問2 介護支援専門員に関する仕事の就労意向について教えてください

(1) 現在働いている事業所での仕事をいつまで続けたいですか

現在働いている事業所での就労意向は、「続けられるかぎり」が35.7%で最も多く、次いで「わからない」(22.9%)等が続いています。

【現在働いている事業所での就労意向】

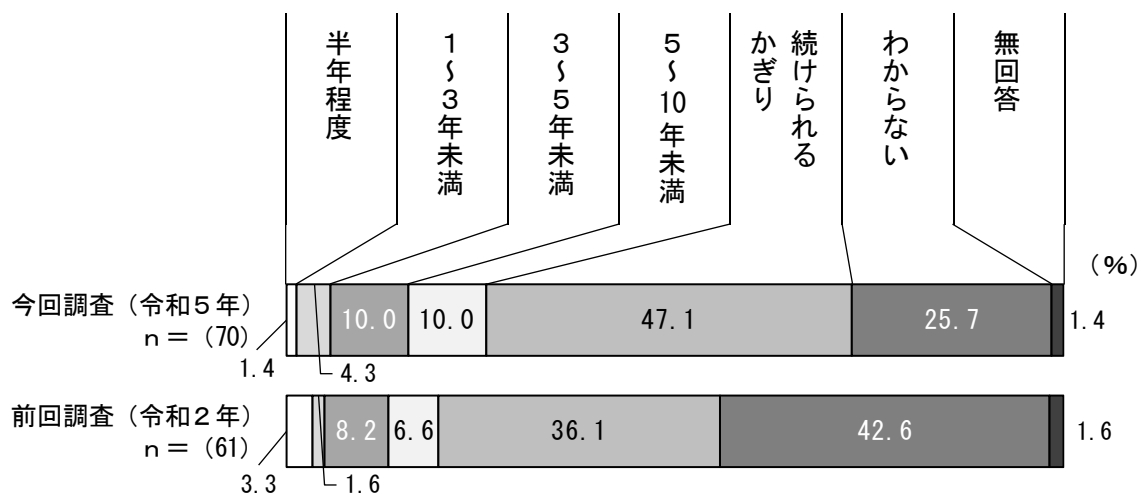


(12) 介護支援専門員としての就労意向

(2) 現在働いている事業所を問わず、介護支援専門員に関する仕事をいつまで続けたいですか

介護支援専門員としての就労意向は、「続けられるかぎり」が47.1%で最も多く、次いで「わからない」(25.7%)等が続いています。

【介護支援専門員としての就労意向】



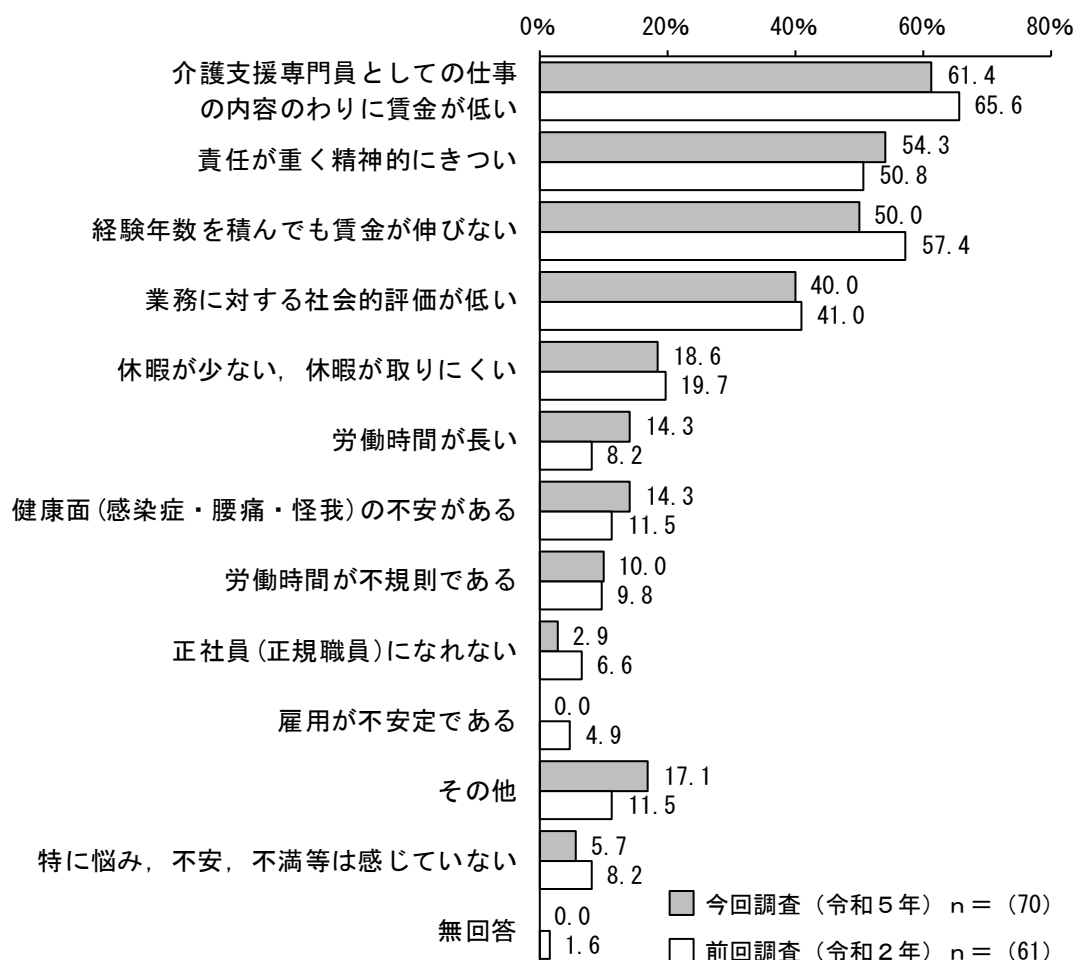
(13) 労働条件・仕事の負担についての悩み、不安、不満等

問3 あなたが介護支援専門員として働く上での労働条件・仕事の負担について、悩み、不安、不満等を感じていることはありますか（あてはまるものすべてに○）

介護支援専門員として働く上での労働条件・仕事の負担について、悩み、不安、不満等を感じていることとしては、「介護支援専門員としての仕事の内容のわりに賃金が低い」が61.4%で最も多く、次いで「責任が重く精神的にきつい」（54.3%）等が続いています。

また、「その他」の主な回答としては、「研修の負担が大きい」、「残業についての不満」等となっています。

【労働条件・仕事の負担についての悩み、不安、不満等】（複数回答）



(14) 働く中で満足感を得られたこと

問4 介護支援専門員として働く中で、今までに満足感を得られたことを教えてください

全体で、56件の内容がありました。内容ごとに整理し、概要を掲載します。

利用者とその家族との関係に関すること

- ・利用者、家族からの感謝の言葉等に満足感を得た。
- ・利用者・家族に感謝されたり、信頼されていると感じるとき。
- ・利用者と家族に支援を喜んでいただいたとき。

働きがいに関すること

- ・利用者、家族の思いに沿った支援が出来たとき。
- ・利用者も家族も、心安らかに暮らせている様子を感じる支援になっているとき。
- ・長年関わったり、利用者だけでなくその一家の支援を継続したこと。
- ・住み慣れた地域で最後まで在宅生活支援ができ、利用者、家族の希望に沿えられて、感謝されたこと。
- ・連携やサービス調整が円滑にスムーズにいったとき。
- ・利用者の自立につながり、お元気な姿をみられたとき。
- ・利用者や家族とともにプランを作成し、最期を迎えるまで担当でき、家族から感謝の言葉をいただけたとき。
- ・自宅での看取りを希望されている方が、希望通りおだやかに最期を迎えられたとき。

※ 今回調査から新たに追加された設問

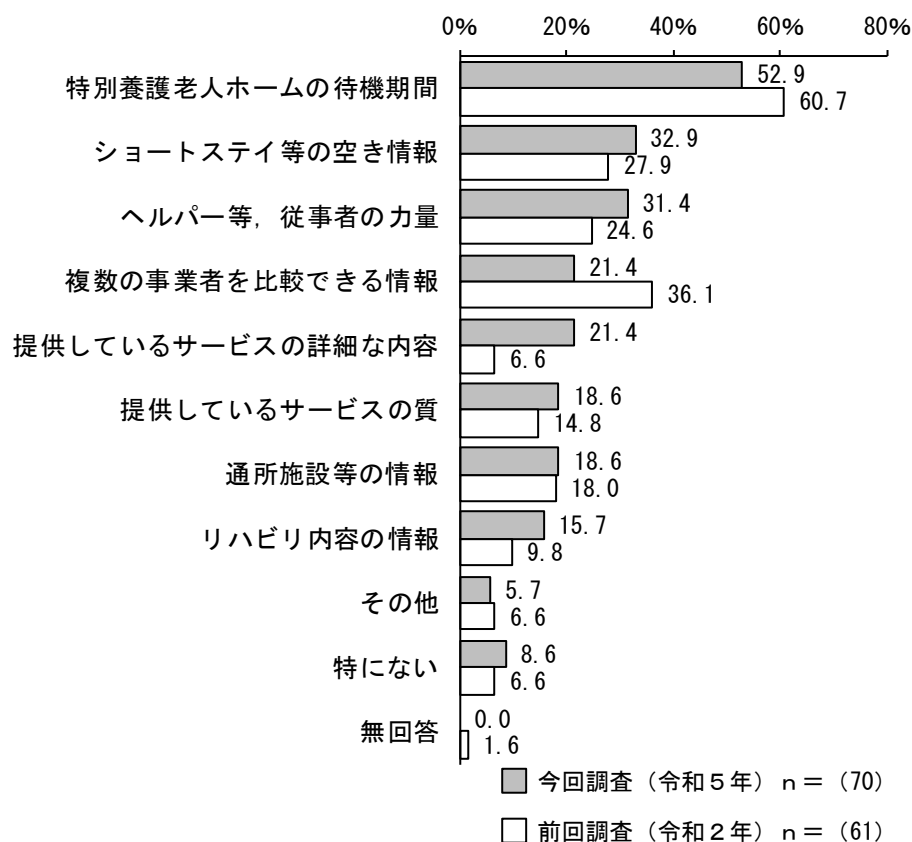
2 利用者から望まれる事業者情報

問5 利用者から「提供してほしい」又は「不足している」との声が多い事業者情報は何か（3つまで選択可）

利用者から「提供してほしい」又は「不足している」との声が多い事業者情報としては、「特別養護老人ホームの待機期間」が52.9%で最も多く、次いで「ショートステイ等の空き情報」（32.9%）等が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「提供しているサービスの詳細な内容」が14.8ポイント増加している一方、「複数の事業者を比較できる情報」が14.7ポイント減少しています。

【利用者から望まれる事業者情報】（複数回答）



3 サービスの供給

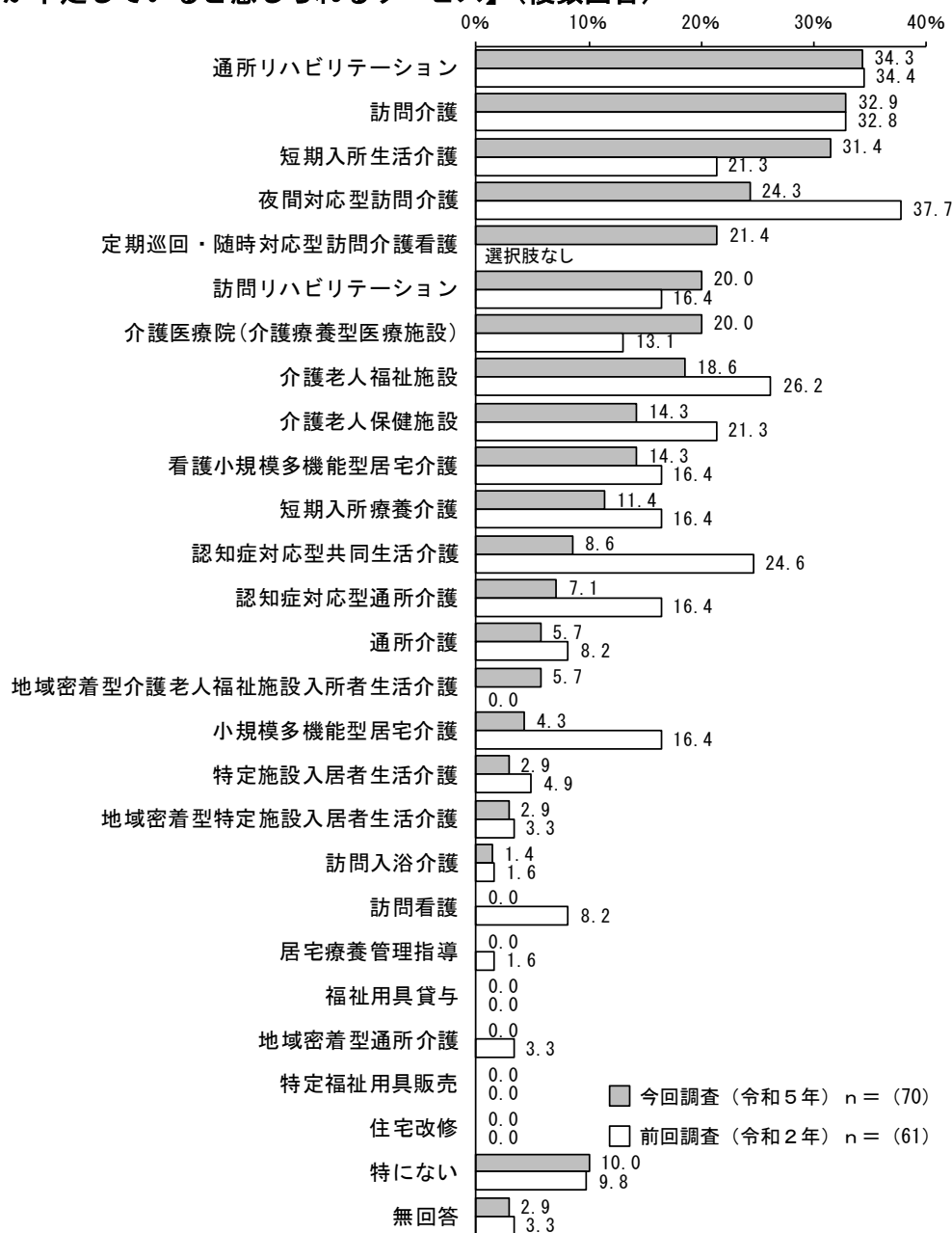
(1) 供給が不足していると感じられるサービス

問6 介護支援専門員から見て、供給が不足していると感じられるサービスはありますか
(あてはまるものすべてに○)

介護支援専門員から見て供給が不足していると感じられるサービスは、「通所リハビリテーション」が34.3%で最も多く、次いで「訪問介護」(32.9%)、「短期入所生活介護」(31.4%)等が続いています。「特になし」は10.0%となっています。

前回の調査結果と比較すると、「短期入所生活介護」が10.1ポイント増加している一方、「認知症対応型共同生活介護」が16.0ポイント、「夜間対応型訪問介護」が13.4ポイント、「小規模多機能型居宅介護」が12.1ポイント減少しています。

【供給が不足していると感じられるサービス】(複数回答)



※ 「特定福祉用具販売」は、前回調査では「福祉用具購入」という選択肢

(2) 不足しているサービスの代替方法

【問6で「特になし」以外を選択した方のみ】

問6-1 不足していると回答したサービスについて、代替方法があれば、主なサービス3つまでについてご記入ください

不足しているサービスの代替方法は、以下のとおりとなっています。

【不足しているサービスの代替方法】(複数回答)

不足しているサービス	件数	代替方法(概要)
通所リハビリテーション	10	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 通所介護。(4件) ▪ 通所介護, 機能訓練型。 ▪ 通所介護の個別機能訓練。 ▪ 自費デイ, リハ。 ▪ 半日型デイサービス。 ▪ 市内に少なく, 空きを待つ, もしくは通所介護の利用+訪問リハなどで, 対応している。 ▪ 訪問看護在籍の理学療法士, 作業療法士等。 ▪ 理学療法士の関わりの時間が少ない。
訪問介護	11	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 通所介護。 ▪ 介護保険と同等, またはわずかに高い額で, 利用できる有償生活支援サービス。 ▪ 有償ヘルパー。 ▪ 低額で利用できる自費サービス。 ▪ 自費サービス。 ▪ シルバー人材センター, 自費の訪問介護業者。 ▪ 元気な高齢者の参加。 ▪ ボランティア, 家族, 定期巡回・随時対応型訪問介護看護, 看護小規模多機能型居宅介護など。 ▪ 特に予防訪問介護を受ける事業所が少ないため, 単価や加算の工夫, 若しくは説明会等で事業所に働きかけてもらえるとよい。 ▪ ヘルパー不足の解消として, 限りある人材を効率よく活用できる仕組みがあればいいと思う。
短期入所生活介護	7	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 短期入所ができない場合は, 訪問介護やデイサービスを使用。 ▪ お泊りデイサービスを利用する。 ▪ 他市のショートステイを利用。 ▪ 訪問看護ステーション, 有料老人ホームのショートステイや遠方のショートステイ。 ▪ 多床室が不足。他市や個室で代替。 ▪ 介護度によって, 受け入れが厳しいことがあった。
夜間対応型訪問介護	3	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 訪問介護。 ▪ ショートステイ。 ▪ 家族。

不足しているサービス	件数	代替方法（概要）
定期巡回・随時対応型 訪問介護看護	3	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 夜間対応型訪問介護，訪問介護。 ▪ 通所介護。 ▪ 実際の稼働状況のチェックをし，他の参入を促してもらえるとよい。
訪問リハビリテーション	5	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 訪問看護在籍の理学療法士，作業療法士等。 ▪ 訪問看護による訪問リハビリ。 ▪ 訪問マッサージで，理学療法士の資格を持つ者に來てもらっている。 ▪ 訪問リハの中の言語療法士が足りない。空きがでるまで待つ。もしくは理学療法士，作業療法士で対応。 ▪ 他市からの支援。
介護医療院 （介護療養型医療施設）	1	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 短期入所療養介護（医療型ショートステイ）。
介護老人福祉施設	3	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 介護老人保健施設。 ▪ 介護老人保健施設，短期入所生活介護，介護医療院（介護療養型医療施設）。 ▪ 入所待ちの間は，使えるサービスを利用しながら待つ。
看護小規模多機能型居宅介護	3	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 看護師がいるデイやショートに通う。 ▪ 訪問看護と小規模多機能型居宅介護との連携。 ▪ 小規模多機能型居宅介護も含めて，東エリアにない。
短期入所療養介護	4	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 短期入所生活介護。 ▪ 介護度によって，受け入れが厳しいことがあった。 ▪ 不足はしているが，必要とされていない。
認知症対応型共同生活介護	1	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 入所待ちの間はデイサービス等を利用。
認知症対応型通所介護	1	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 通所介護。
通所介護	2	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 対応策なし。
訪問入浴介護	3	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 通所介護による入浴（機械浴）。
居宅療養管理指導	1	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 代替方法について記載なし。

(3) 在宅生活を送る上で必要と思われるサービスや支援内容

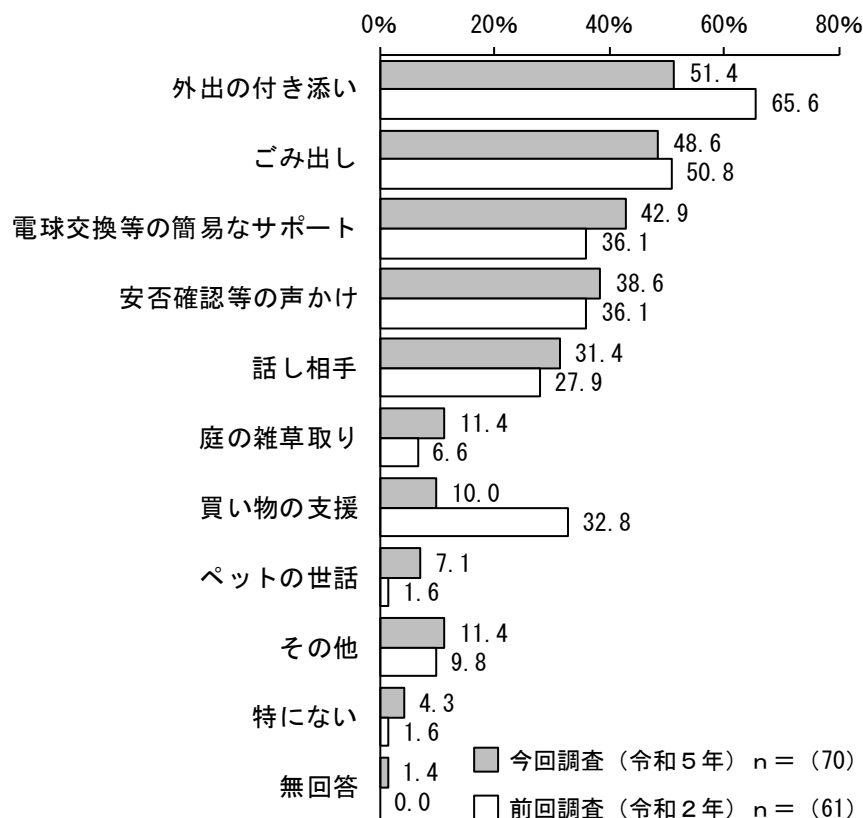
問7 介護保険サービスのメニュー以外で、在宅生活を送る上で必要と思われるサービスや支援内容がありますか（3つまで選択可）

在宅生活を送る上で必要と思われるサービスや支援内容としては、「外出の付き添い」が51.4%で最も多く、次いで「ごみ出し」（48.6%）等が続いています。

また、「その他」の主な回答としては、「通院・受診の同行」、「服薬の声掛け」等となっています。

前回の調査結果と比較すると、「電球交換等の簡易なサポート」は6.8ポイント、「ペットの世話」は5.5ポイント増加している一方、「買い物の支援」は22.8ポイント、「外出の付き添い」は14.2ポイント減少しています。

【在宅生活を送る上で必要と思われるサービスや支援内容】（複数回答）



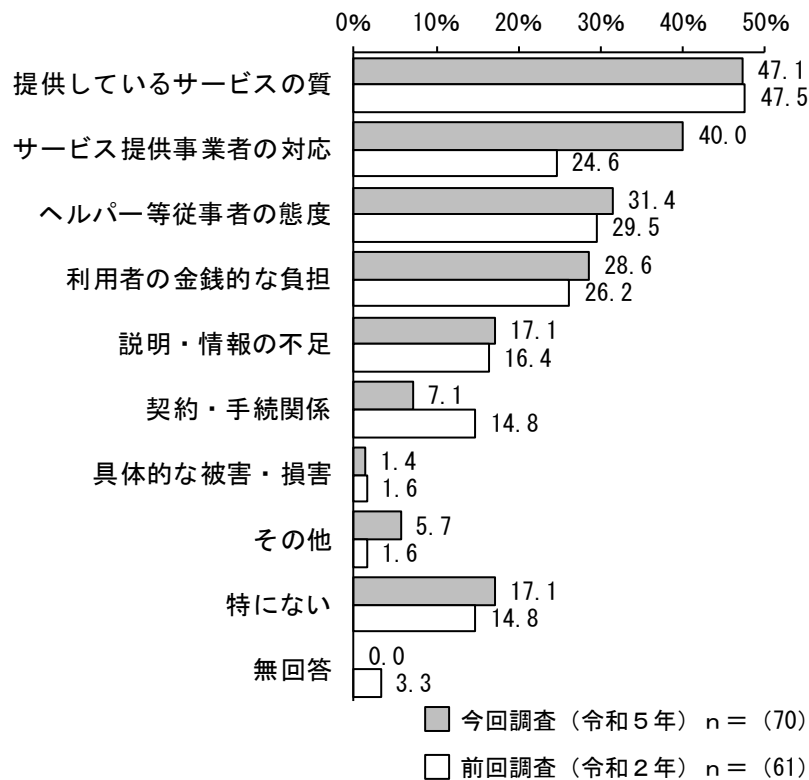
4 苦情・相談事例

(1) 苦情や相談

問8 利用者やその家族から寄せられる苦情や相談は、どのようなものが多いですか
(3つまで選択可)

利用者やその家族からの苦情・相談内容で多いものとしては、「提供しているサービスの質」が47.1%で最も多く、次いで「サービス提供事業者の対応」(40.0%)等が続いています。

【苦情や相談】(複数回答)



5 業務内容

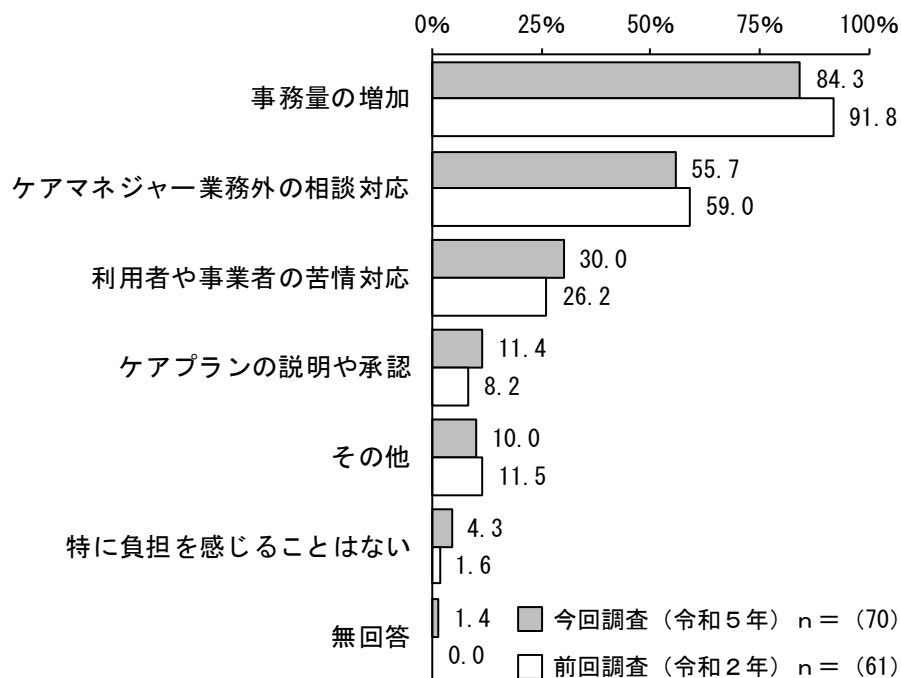
(1) 介護支援専門員の業務の負担

問9 介護支援専門員の業務について、どのようなことに負担を感じていますか
(あてはまるものすべてに○)

介護支援専門員の業務について、負担を感じていることとしては、「事務量の増加」が84.3%で最も多く、次いで「ケアマネジャー業務外の相談対応」(55.7%)等が続いています。

また、「その他」の主な回答としては、「身寄りがないケース」、「医師、病院との連絡」等となっています。

【介護支援専門員の業務の負担】(複数回答)



(2) 仕事量の評価

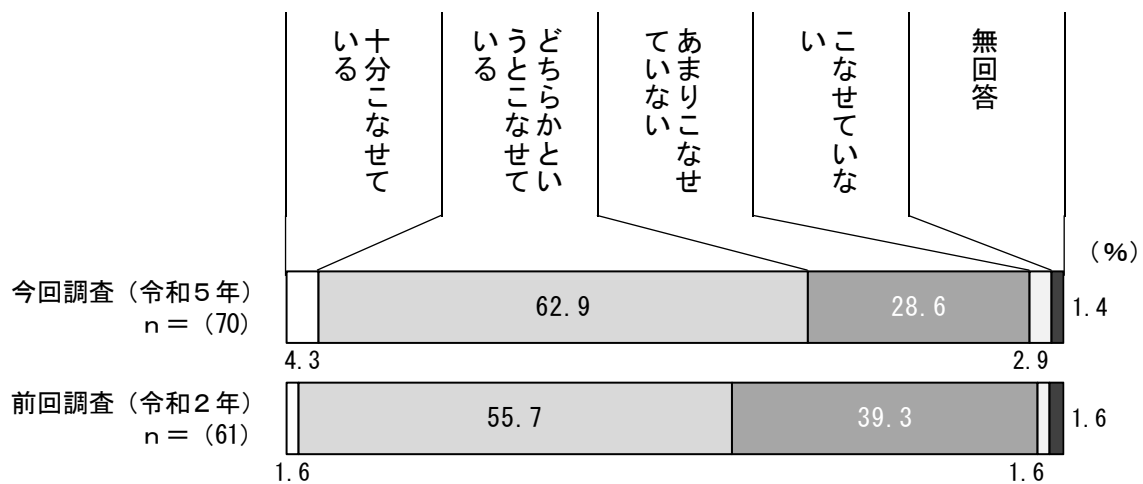
問10 あなた自身が受け持つ仕事量について、どのように評価しますか

受け持つ仕事量の評価としては、「どちらかというとならせている」が62.9%で最も多く、次いで「あまりこなせていない」(28.6%)、「十分こなせている」(4.3%)と続いています。半数以上が「(十分・どちらかというとならせている」と回答しています。

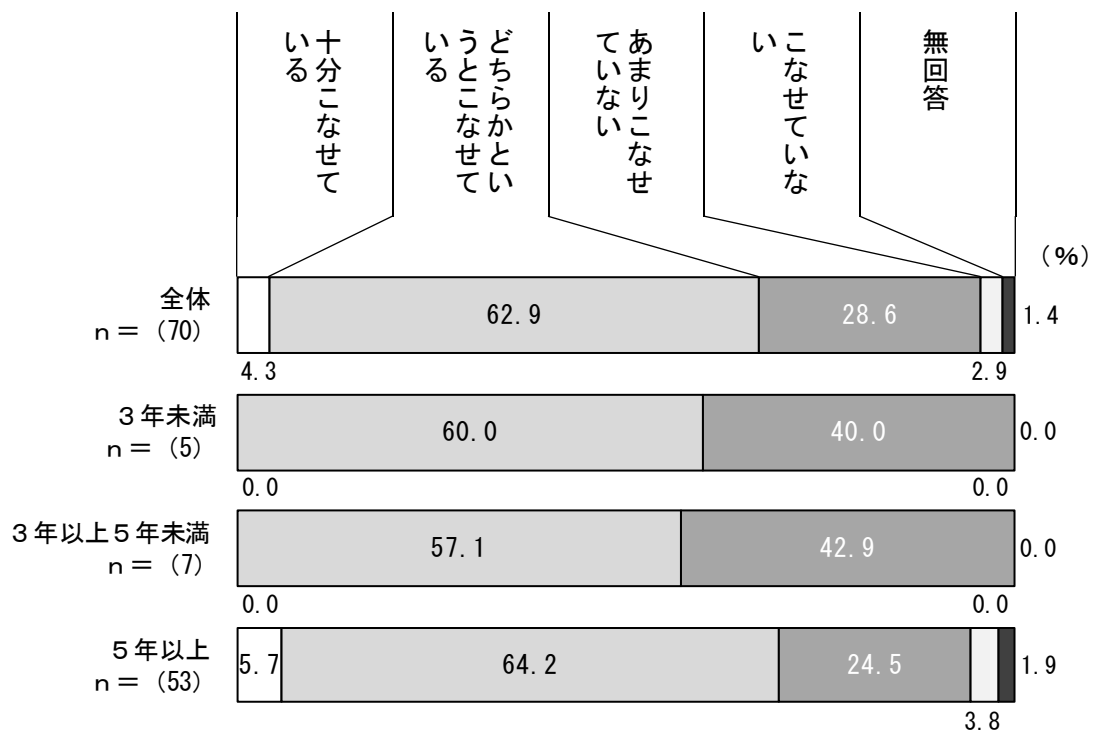
前回の調査結果と比較すると、「どちらかというとならせている」が7.2ポイント増加している一方、「あまりこなせていない」は10.7ポイント減少しています。

これを経験年数別にみると、5年以上で「(十分・どちらかというとならせている」が69.9%となっています。

【仕事量の評価】



【仕事量の評価：経験年数別】



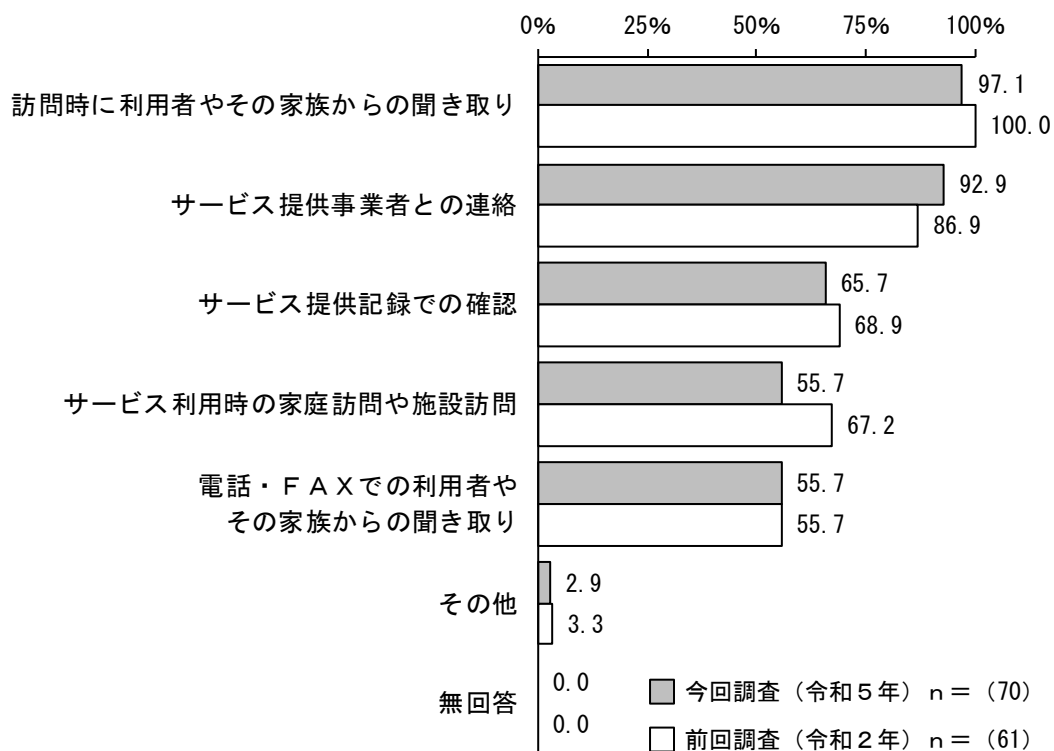
(3) サービスの質に関する履行確認の方法

問 11 ケアプランに基づいたサービスが提供されているか、また、契約事項が守られているかの確認は、ケアマネジメント業務の一部です。サービスの質（中身）についての履行確認はどのような方法で行っていますか（あてはまるものすべてに○）

サービスの質に関する履行確認の方法は、「訪問時に利用者やその家族からの聞き取り」が97.1%で最も多く、次いで「サービス提供事業者との連絡」（92.9%）,「サービス提供記録での確認」（65.7%）等が続いています。

前回の調査結果と比較すると,「サービス利用時の家庭訪問や施設訪問」が11.5ポイント減少しています。

【サービスの質に関する履行確認の方法】（複数回答）

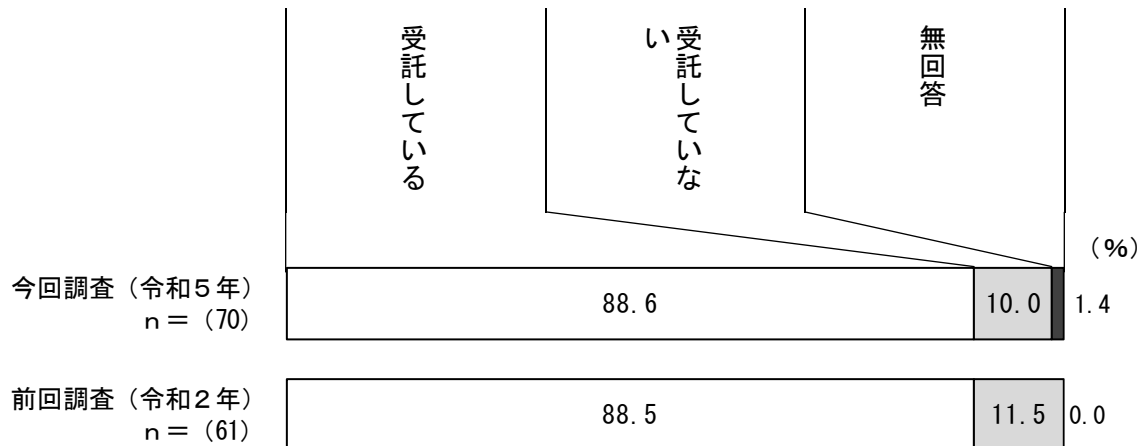


(4) 介護予防プランの作成の受託

問 12 介護予防プランの作成を受託していますか

介護予防プランの作成の受託については、「受託している」が 88.6%となっています。

【介護予防プランの作成の受託】



(5) 介護予防プランの作成受託上の問題点

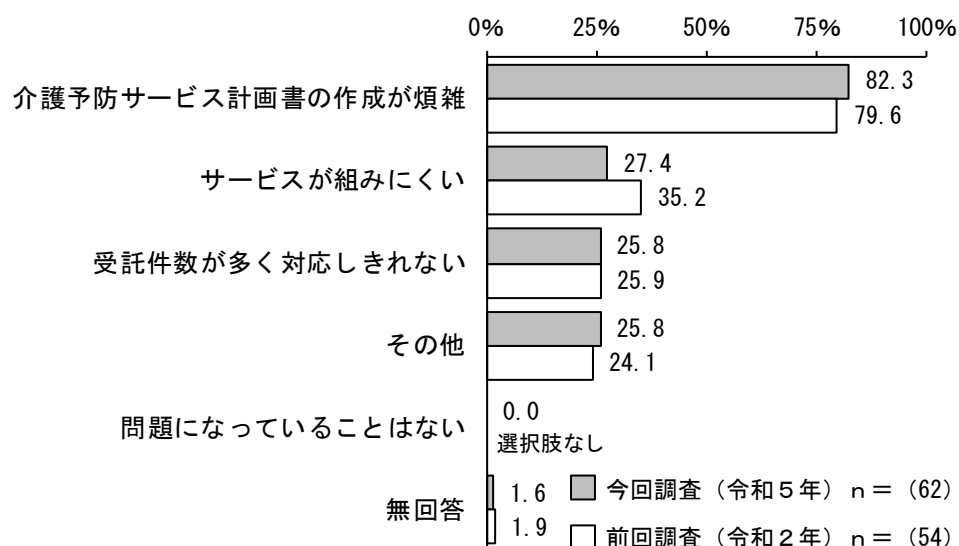
【問 12 で「受託している」を選択した方のみ】

問 12-1 介護予防プランの作成を受託する上で問題になっていることは何ですか
(あてはまるものすべてに○)

問 12 で「受託している」と回答した方に介護予防プランの作成を受託する上での問題点を聞いたところ、「介護予防サービス計画書の作成が煩雑」が 82.3%で最も多く、次いで「サービスが組みにくい」(27.4%)、「受託件数が多く対応しきれない」(25.8%)等が続いています。

「その他」の主な回答としては、「報酬が見合わない」、「事業所の受け手（ヘルパー等）が少ない」等となっています。

【介護予防プランの作成受託上の問題点】(複数回答)



6 業務上の悩みや問題点

(1) 業務上の悩みや問題点の相談相手

問13 あなたは、業務上の悩みや問題点を誰に相談していますか

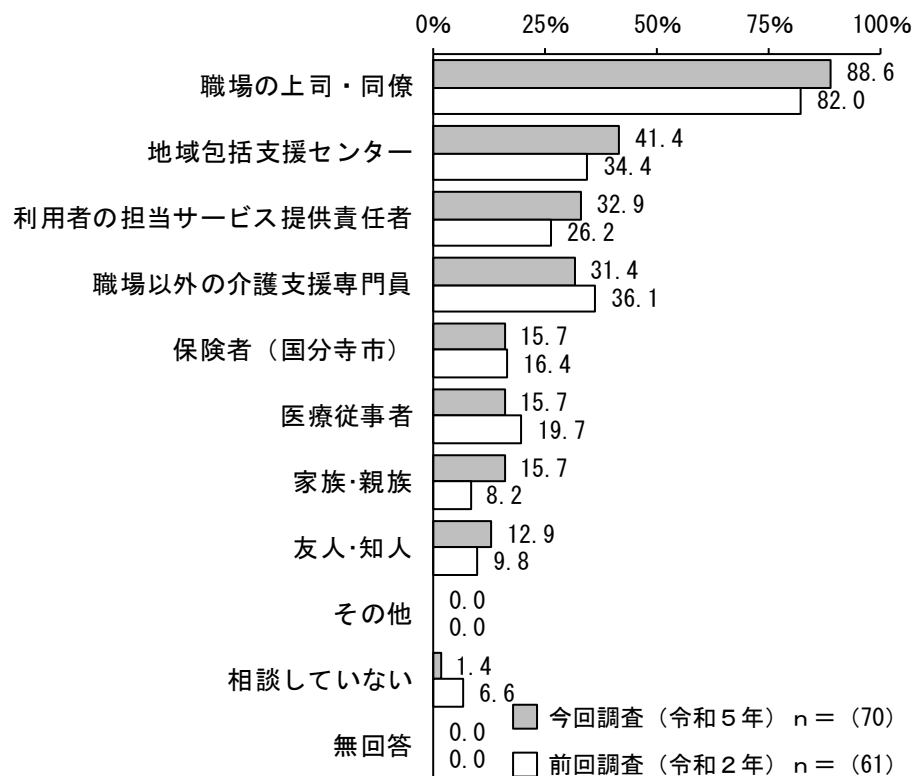
(あてはまるものすべてに○)

(※選択肢「家族・親族」、「友人・知人」については守秘義務を伴うものを除く)

業務上の悩みや問題点の相談相手としては、「職場の上司・同僚」が 88.6%で最も多く、次いで「地域包括支援センター」(41.4%)、「利用者の担当サービス提供責任者」(32.9%)等が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「家族・親族」は 7.5 ポイント、「地域包括支援センター」は 7.0 ポイント増加している一方、「職場以外の介護支援専門員」は 4.7 ポイント、「医療従事者」は 4.0 ポイント減少しています。

【業務上の悩みや問題点の相談相手】(複数回答)



(2) 相談していない理由

【問13で「相談していない」を選択した方のみ】

問13-1 相談していない理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）

「相談していない」と回答した方の、相談していない理由は「忙しくて相談する時間がとれないから」となっています。

【相談していない理由】（複数回答）

	忙しくて相談する時間がとれないから	職場内外とも相談体制が整っていないから	信頼できる相談相手がないから	相談先がわからないから	相談しても無駄だから	自分で解決しているから	その他	無回答
今回調査（令和5年）n＝（1）	1件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
前回調査（令和2年）n＝（4）	1件	1件	1件	1件	3件	2件	0件	0件

7 ケアマネジメントの質の向上

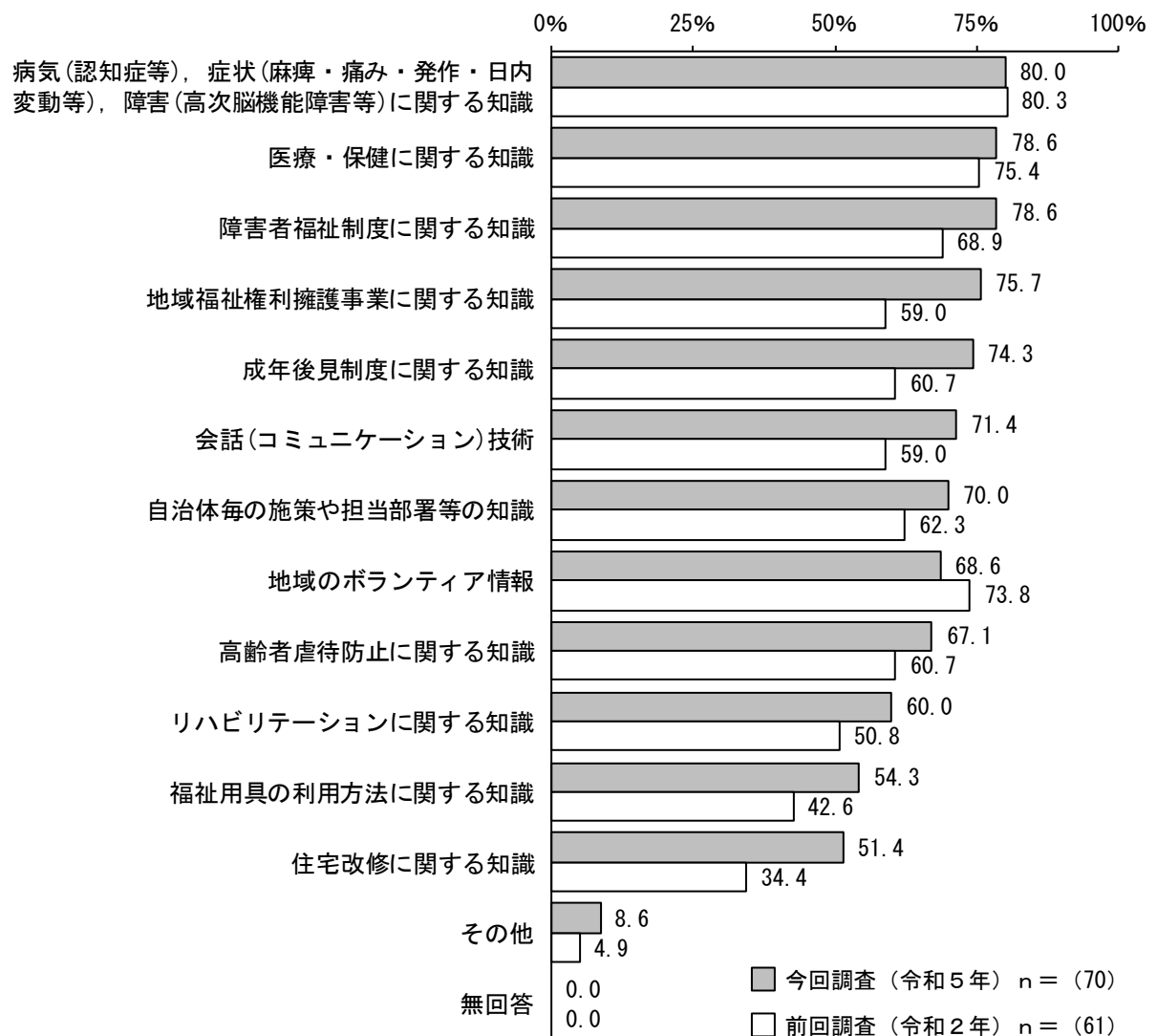
(1) 質の向上に向けて、必要な知識

問 14 ケアマネジメントの質の向上に向けて、必要な知識は何だと思いますか
(あてはまるものすべてに○)

ケアマネジメントの質の向上に向けて必要だと思う知識としては、「病気（認知症等）、症状（麻痺・痛み・発作・日内変動等）、障害（高次脳機能障害等）に関する知識」が 80.0%で最も多く、次いで「医療・保健に関する知識」、「障害者福祉制度に関する知識」（それぞれ 78.6%）等が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「住宅改修に関する知識」は 17.0 ポイント、「福祉用具の利用方法に関する知識」は 11.7 ポイント増加しています。

【質の向上に向けて、必要な知識】（複数回答）



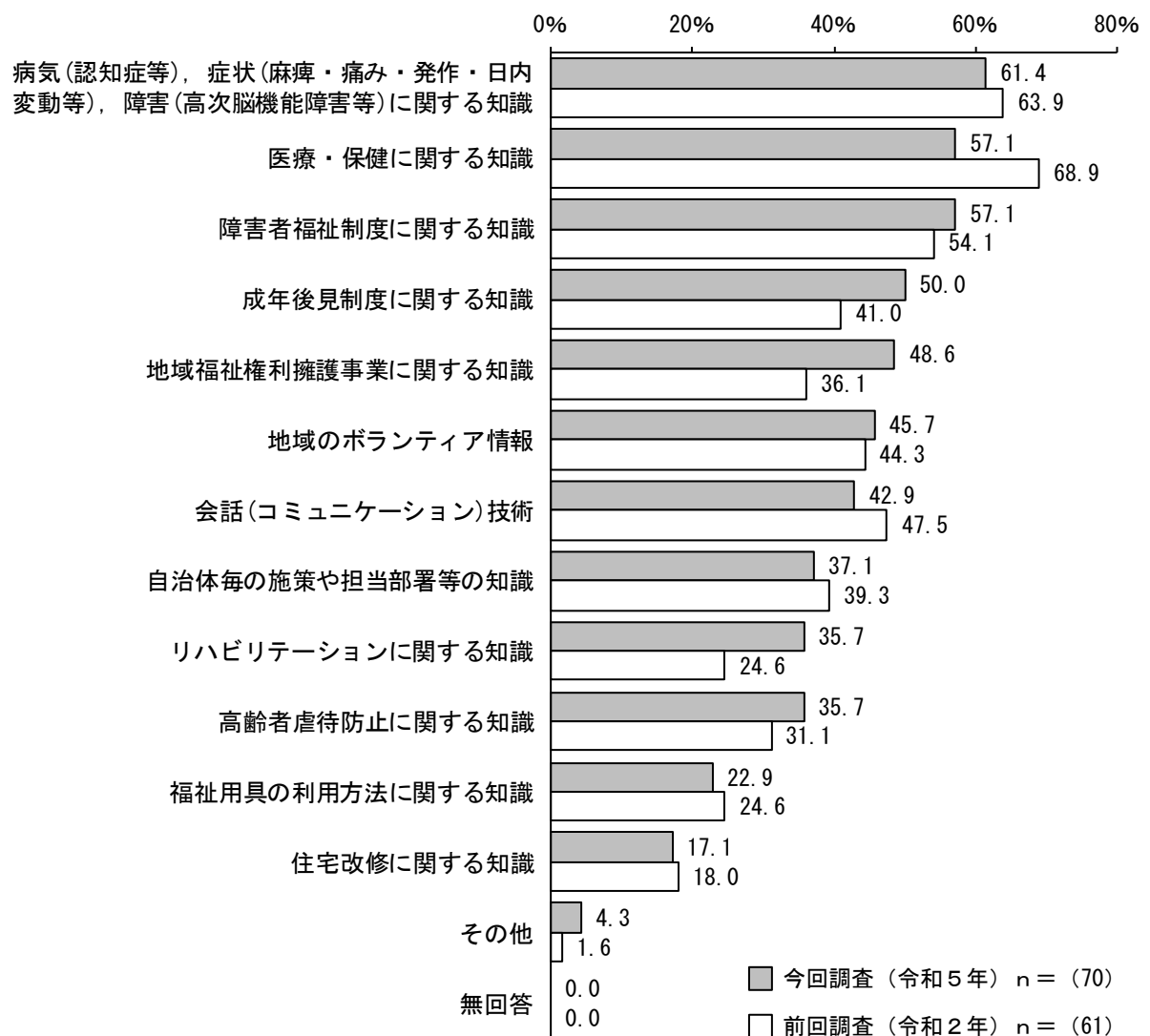
(2) 質の向上に向けて、さらに向上させたい知識

問 15 ケアマネジメントの質の向上に向けて、さらに向上させたい知識は何ですか
(あてはまるものすべてに○)

ケアマネジメントの質の向上に向けてさらに向上させたい知識としては、「病気（認知症等）、症状（麻痺・痛み・発作・日内変動等）、障害（高次脳機能障害等）に関する知識」が 61.4%で最も多く、次いで「医療・保健に関する知識」、「障害者福祉制度に関する知識」（それぞれ 57.1%）等が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「地域福祉権利擁護事業に関する知識」は 12.5 ポイント、「リハビリテーションに関する知識」は 11.1 ポイント増加している一方、「医療・保健に関する知識」は 11.8 ポイント減少しています。

【質の向上に向けて、さらに向上させたい知識】（複数回答）



8 サービス担当者会議の開催状況

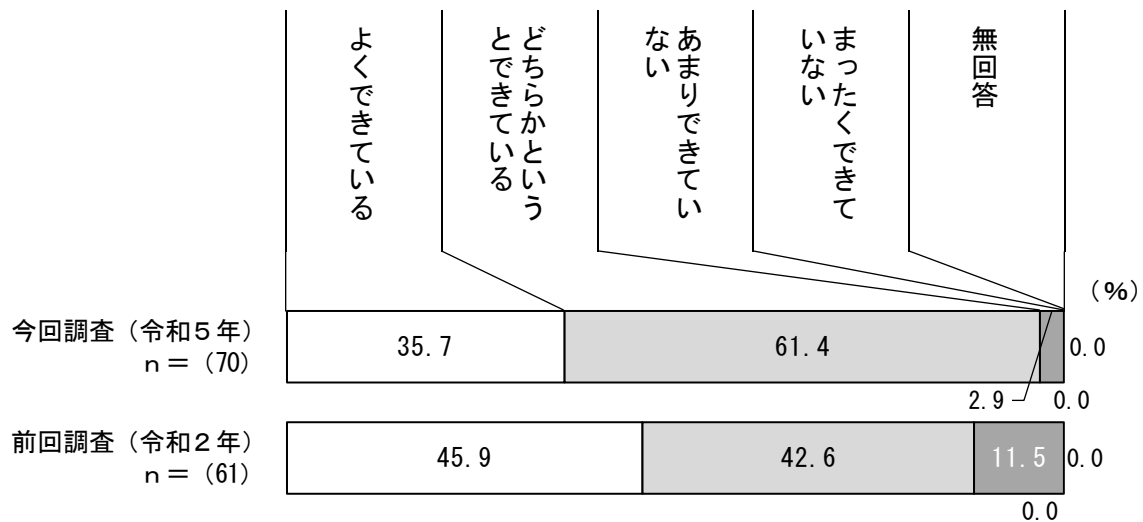
(1) サービス担当者会議の適切な開催

問 16 利用者の心身の状態や環境の変化，保健・福祉・医療サービスの利用状況及び経過等から，サービス担当者会議を開催する機会を的確に捉えて，適切に開催していますか

サービス担当者会議を適切に開催しているかについては，「どちらかというとできている」が61.4%で最も多く，次いで「よくできている」(35.7%)，「あまりできていない」(2.9%)が続いています。

前回の調査結果と比較すると，「(よく・どちらかというと)できている」との回答が8.6ポイント増加しています。

【サービス担当者会議の適切な開催】



(2) サービス担当者会議の適切な開催ができない理由

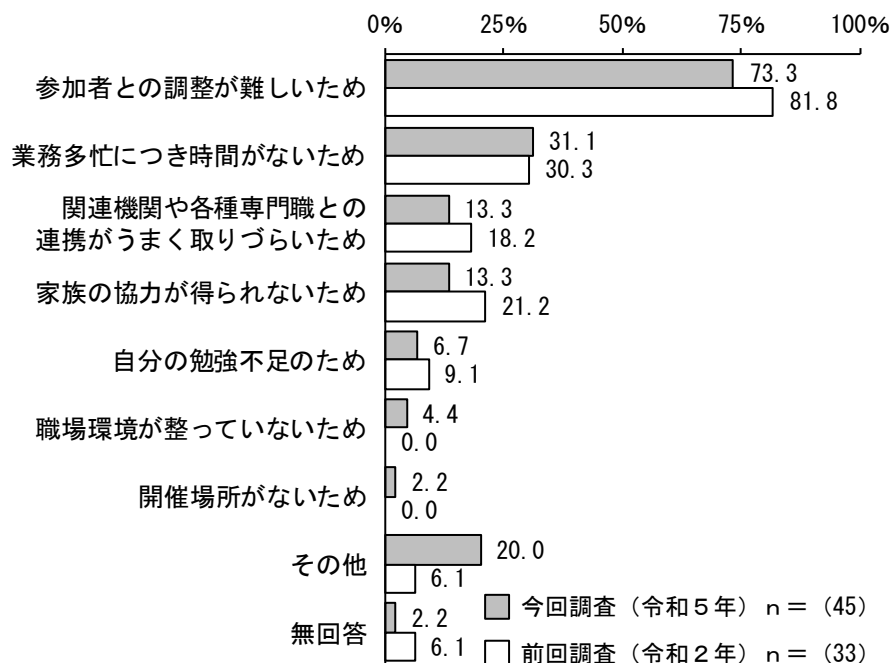
【問16で「よくできている」以外を選択した方のみ】

問16-1 どのようなことが原因ですか（あてはまるものすべてに○）

問16で「どちらかというときできている」、「あまりできていない」、「まったくできていない」と回答した方にその理由を聞くと、「参加者との調整が難しいため」が73.3%で最も多く、次いで「業務多忙につき時間がないため」(31.1%)、「関連機関や各種専門職との連携がうまく取りづらいため」、「家族の協力が得られないため」(それぞれ13.3%)等が続いています。

「その他」の主な回答としては、「新型コロナウイルス感染拡大予防のため」等となっています。

【サービス担当者会議の適切な開催ができない理由】（複数回答）



9 保険者に対する評価

(1) 保険者（国分寺市）に対する不満

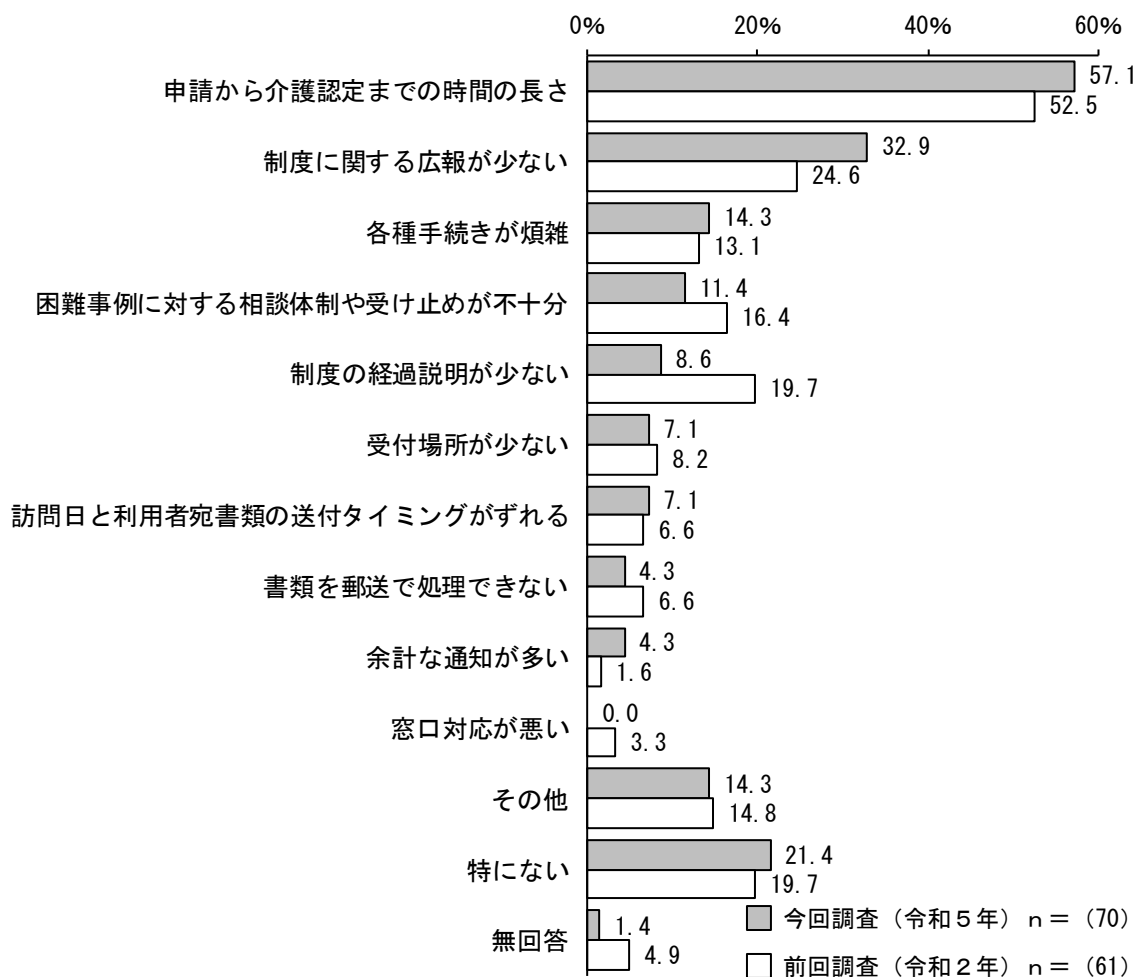
問 17 保険者（国分寺市）に対して不満に感じることは、どのようなことですか
（あてはまるものすべてに○）

保険者（国分寺市）に対して不満に感じることは、「申請から介護認定までの時間の長さ」が 57.1%で最も多く、次いで「制度に関する広報が少ない」（32.9%）等が続いています。

「その他」の主な回答としては、「介護認定時の医師の意見書は、閲覧請求と同時に発行してほしい」、「制度に関して、国分寺市としてどのようにしていきたいかが不明」、「暫定サービスの使いづらさ」、「他課連携に積極的でない」、「介護認定審査会によって、認定結果に偏りがある気がする」、「IT化・ICT導入の遅れ」等となっています。

前回の調査結果と比較すると、「制度に関する広報が少ない」が 8.3 ポイント増加しています。

【保険者（国分寺市）に対する不満】（複数回答）



10 介護支援専門員への支援

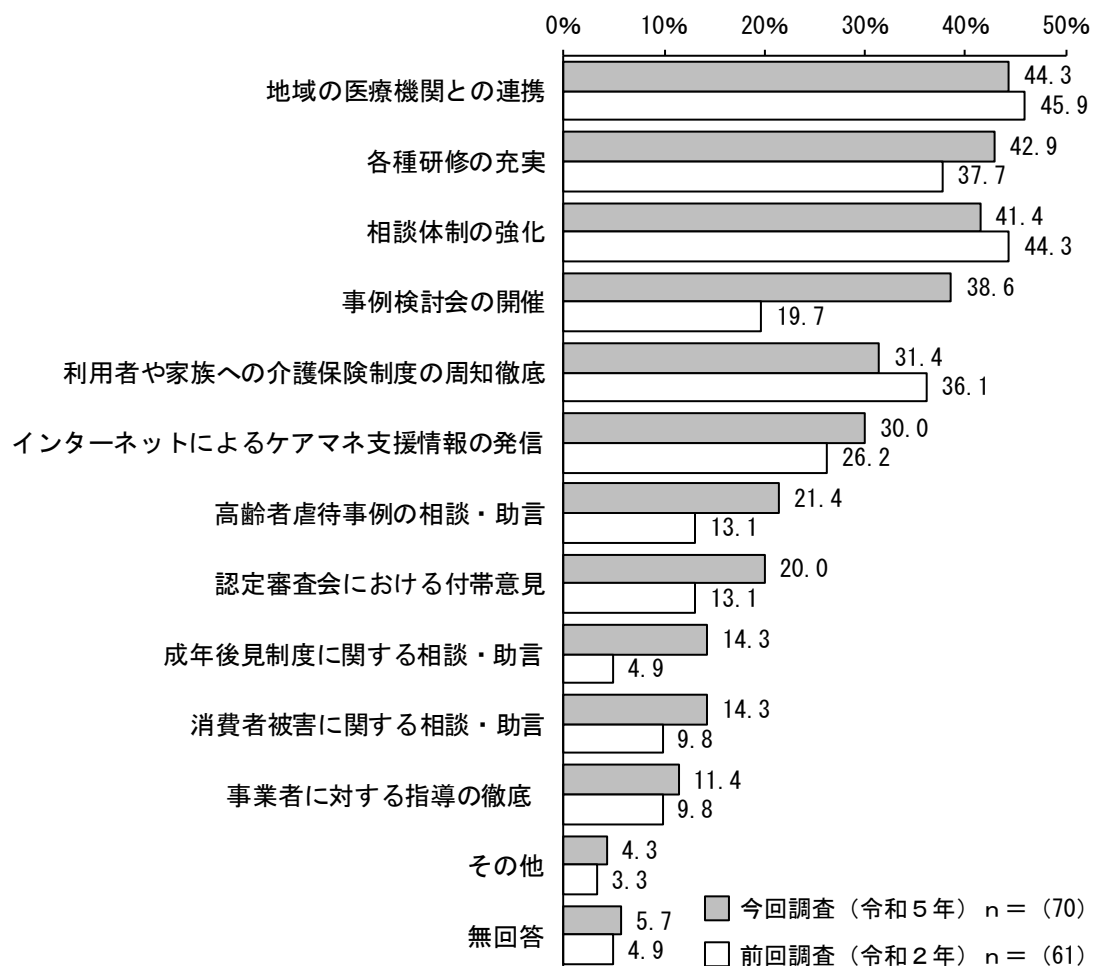
(1) 希望する支援

問 18 保険者（国分寺市）が行う介護支援専門員への支援として、どのようなことを望みますか（あてはまるものすべてに○）

保険者（国分寺市）が行う介護支援専門員への支援として望まれることは、「地域の医療機関との連携」が 44.3%で最も多く、次いで「各種研修の充実」（42.9%）,「相談体制の強化」（41.4%）等が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「事例検討会の開催」が 18.9 ポイント,「成年後見制度に関する相談・助言」が 9.4 ポイント増加しています。

【希望する支援】（複数回答）



(2) 保険者（国分寺市）に相談したい内容

問 19 保険者（国分寺市）に相談したいことがありましたら、ご自由にご記入ください

全体で、14 件の内容がありました。内容ごとに整理し、概要を掲載します。

制度・行政に関すること

- ・より多くの支援のプラン作成を可能にするために、要支援のプランを介護と同じ書式にして、要支援の受託金額をアップしてほしい。
- ・以前のように、月 1 回更新のケアマネ事業所一覧には受入可能件数を掲載してほしい。
- ・介護保険以外の相談を受けるケースが増えているので、市の相談窓口もまとまってほしい。
- ・予防の給付を 1 か月単位にしてほしい。
- ・身体介護に入れるようにデイサービス、支援への週 1 回の制限をなしにしてほしい。
- ・医師会の顔が全くみえない。
- ・主任介護支援専門員の活躍の機会・場について、一緒に考えてほしい。

介護認定に関すること

- ・暫定プランが多いので、期間内の更新結果（ギリギリも不可）、本人の生活状況や病状に則した審査、調査員によるサービスのすすめは止めてほしい。
- ・認定調査員によっては、サービスをすすめたり、〇〇ができると紹介されるので、担当ケアマネジャー等（地域包括支援センター）へ相談して下さい、としてほしい。
- ・認定結果に日数がかかる。
- ・認定の結果がでるのが遅いため、暫定プランを作ったり、担当者会議を 2 回開催することは大変である。書類の事業所間のやりとりは F A X やメールも可としてほしい。
- ・介護保険申請後、認定調査を受ける前に亡くなられた場合、未調査であっても一定の認定を出してほしい。

11 関係機関との連携

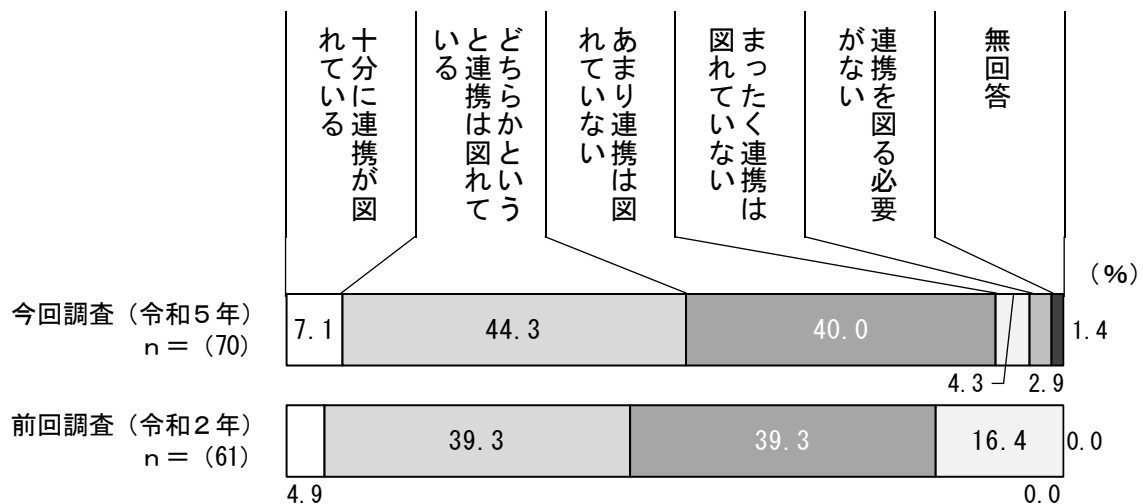
(1) 関係機関との連携状況

問 20 次に挙げる人たちとの連携状況について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください

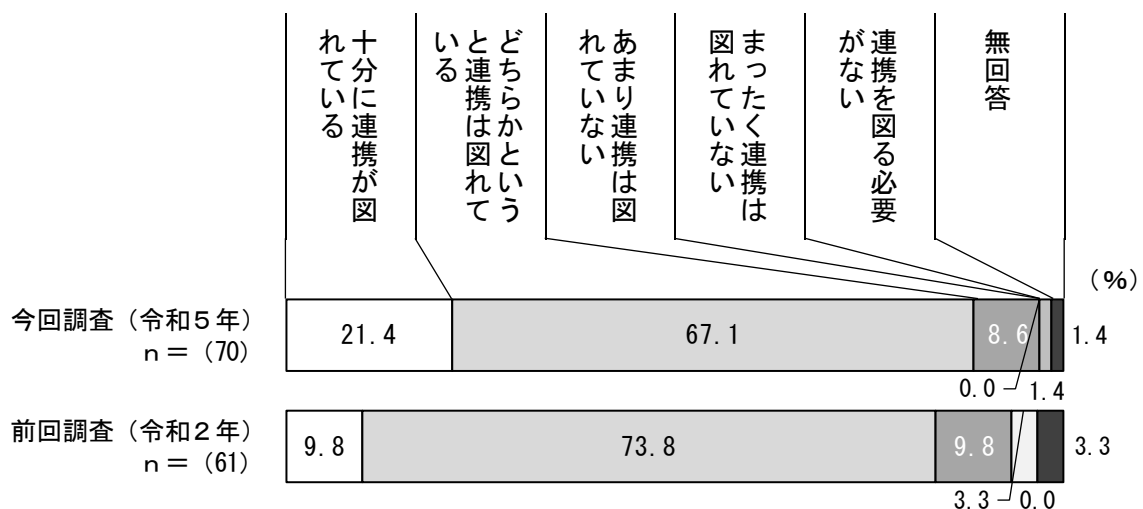
関係機関との連携状況をみると、「(十分に連携が・どちらかという連携は)図れている」との回答が半数を上回っているのは(1)他の居宅介護支援事業所、(2)他の介護保険事業所、(3)地域包括支援センター、(5)行政機関の4つになっています。「(あまり・まったく)連携は図れていない」との回答が半数を上回っているのは(4)ボランティア・NPO、(6)社会福祉協議会、(7)民生委員、(8)障害者基幹相談支援センターの4つになっています。

前回の調査結果と比較すると全ての機関において「(十分に連携が・どちらかという連携は)図れている」が増加しています。

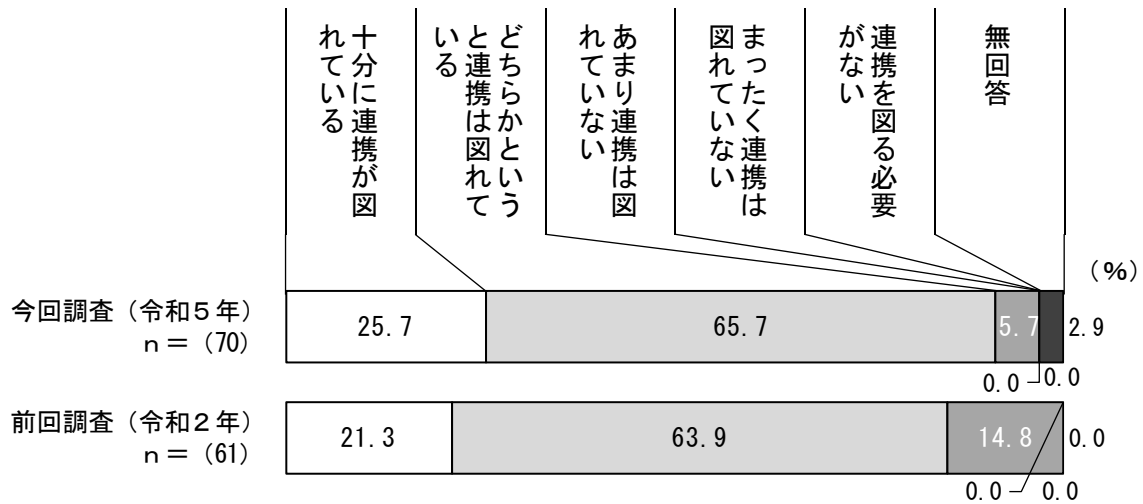
【(1) 他の居宅介護支援事業所】



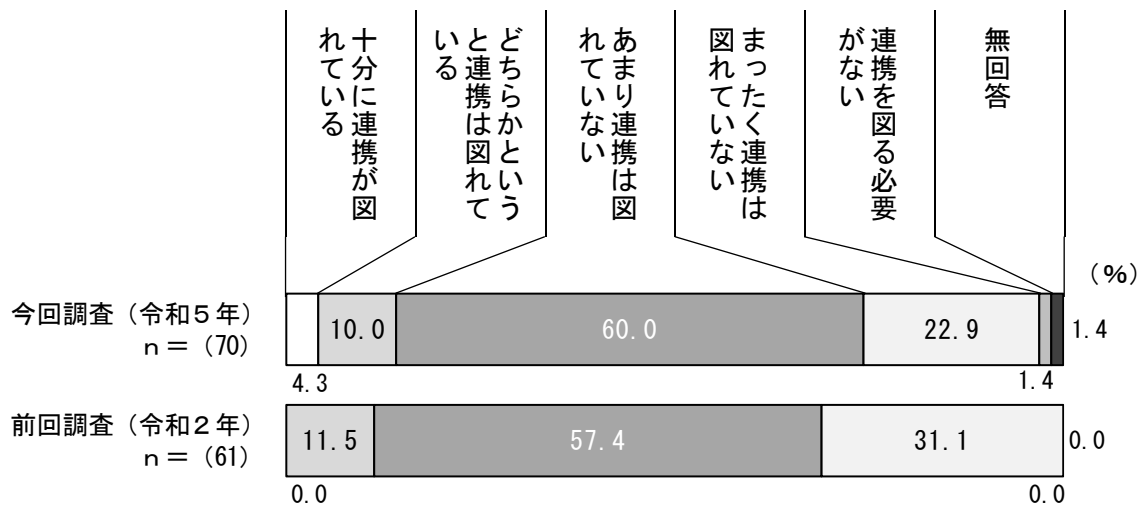
【(2) 他の介護保険事業所】



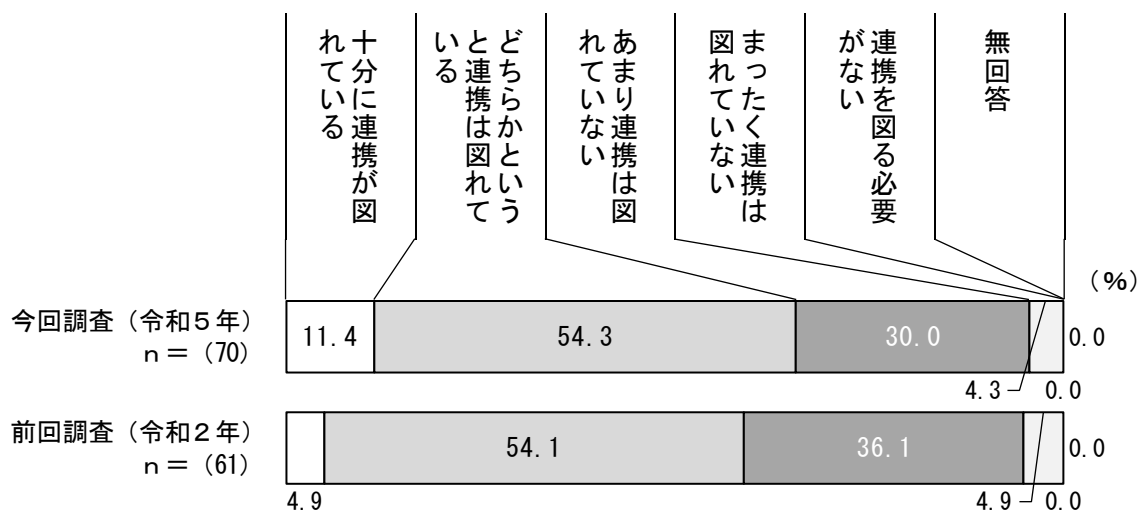
【(3) 地域包括支援センター】



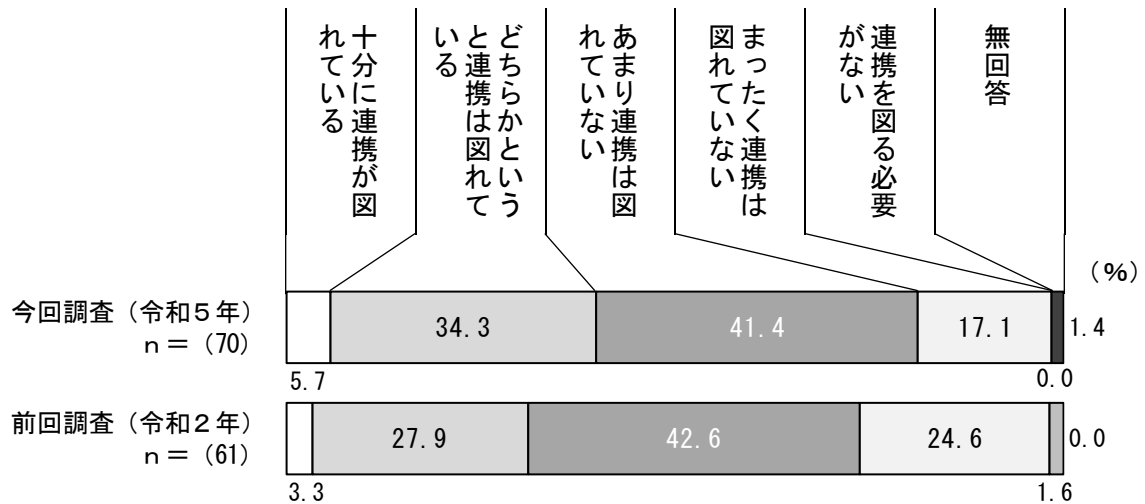
【(4) ボランティア・NPO】



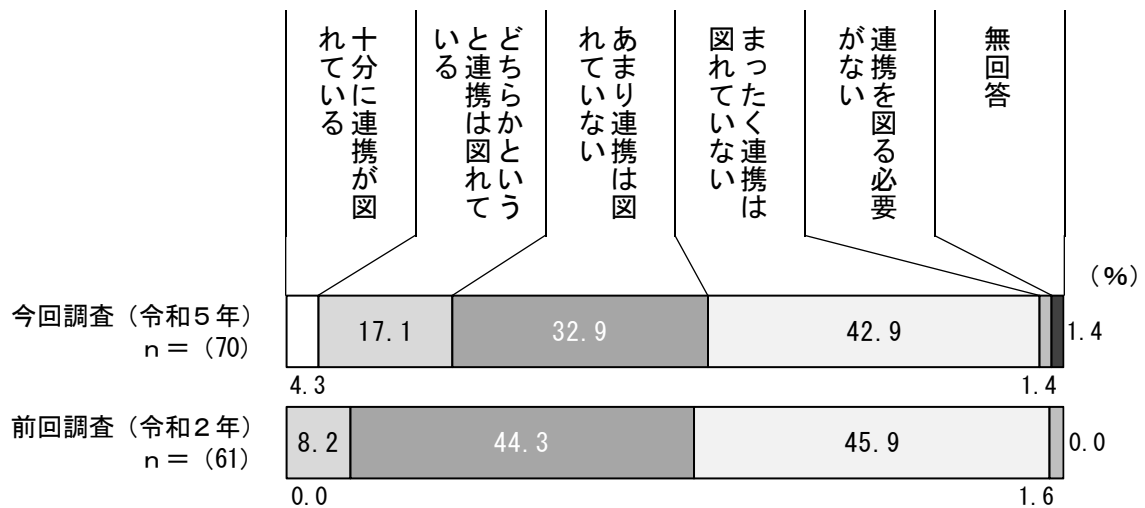
【(5) 行政機関】



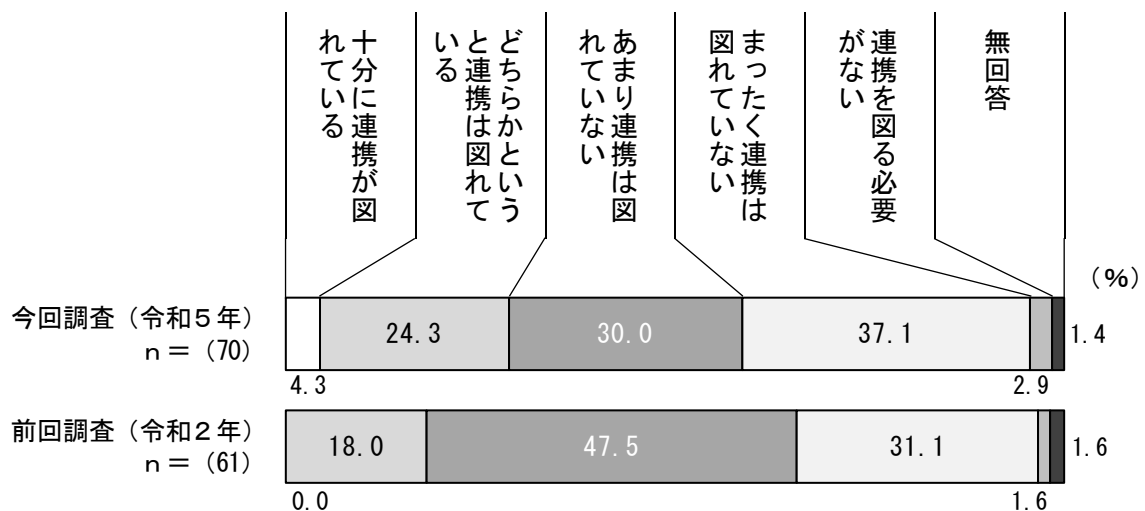
【(6) 社会福祉協議会】



【(7) 民生委員】



【(8) 障害者基幹相談支援センター】



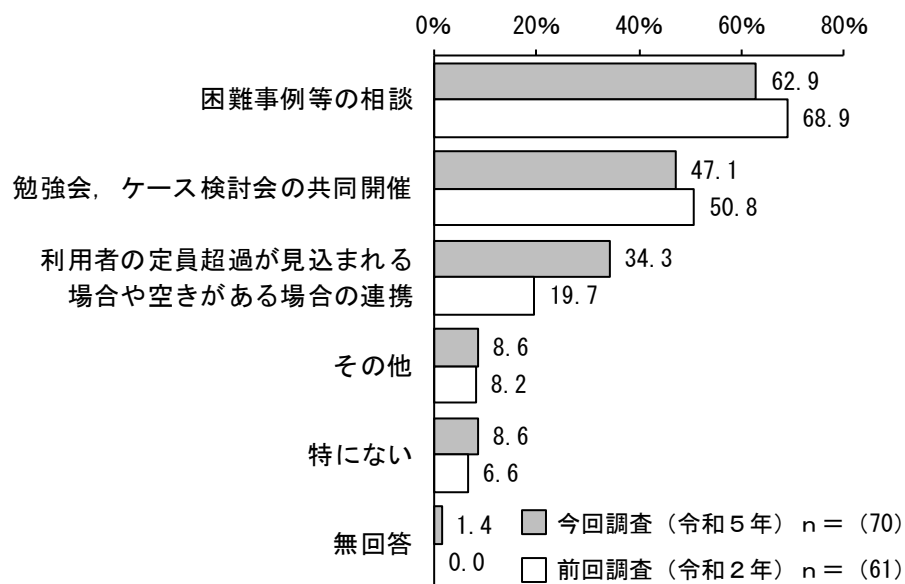
(2) 関係機関との連携内容

問21 問20の人たちとどのような連携を取っていますか（あてはまるものすべてに○）

関係機関との連携内容としては、「困難事例等の相談」が62.9%で最も多く、次いで「勉強会、ケース検討会の共同開催」(47.1%)、「利用者の定員超過が見込まれる場合や空きがある場合の連携」(34.3%)等が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「利用者の定員超過が見込まれる場合や空きがある場合の連携」が14.6ポイント増加しています。一方、「困難事例等の相談」は6.0ポイント、「勉強会、ケース検討会の共同開催」は3.7ポイント減少しています。

【関係機関との連携内容】（複数回答）



12 医療との連携

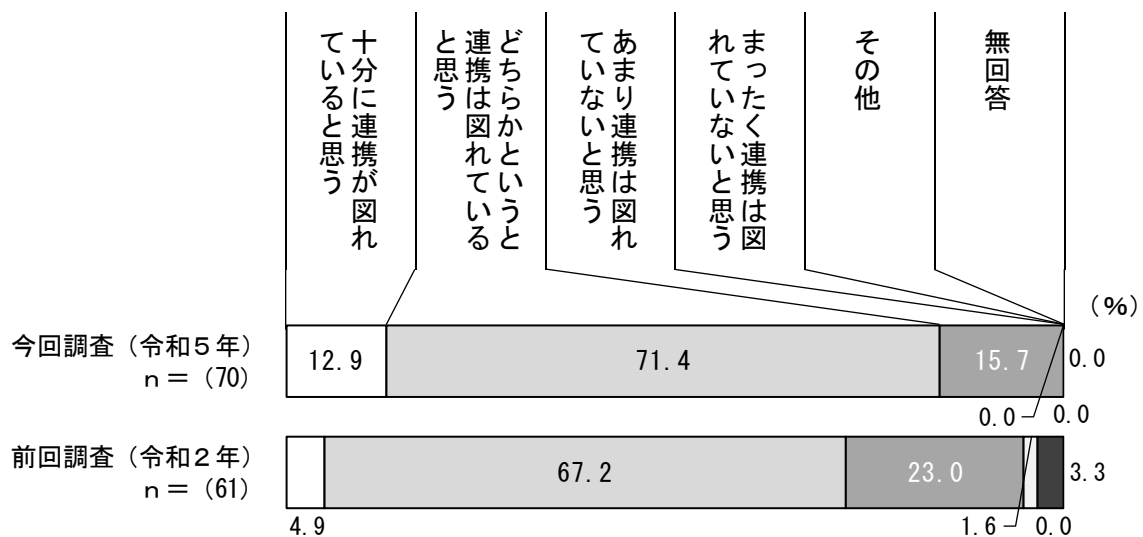
(1) かかりつけ医や歯科医との連携状況

問 22 あなたの事業所において、かかりつけ医や歯科医との連携が必要だと思うケースでは、実際に連携が図れていると思いますか

かかりつけ医や歯科医との連携が図れているかについては、「どちらかという連携は図れていると思う」が 71.4%で最も多く、次いで「あまり連携は図れていないと思う」(15.7%)等が続いています。

前回の調査結果と比較すると、「(十分に連携が・どちらかという連携は) 図れていると思う」が 12.2 ポイント増加しています。

【かかりつけ医や歯科医との連携状況】



(2) かかりつけ医や歯科医との連携方法

【問22で「十分に連携が図れていると思う」、「どちらかという連携は図れていると思う」を選択した方のみ】

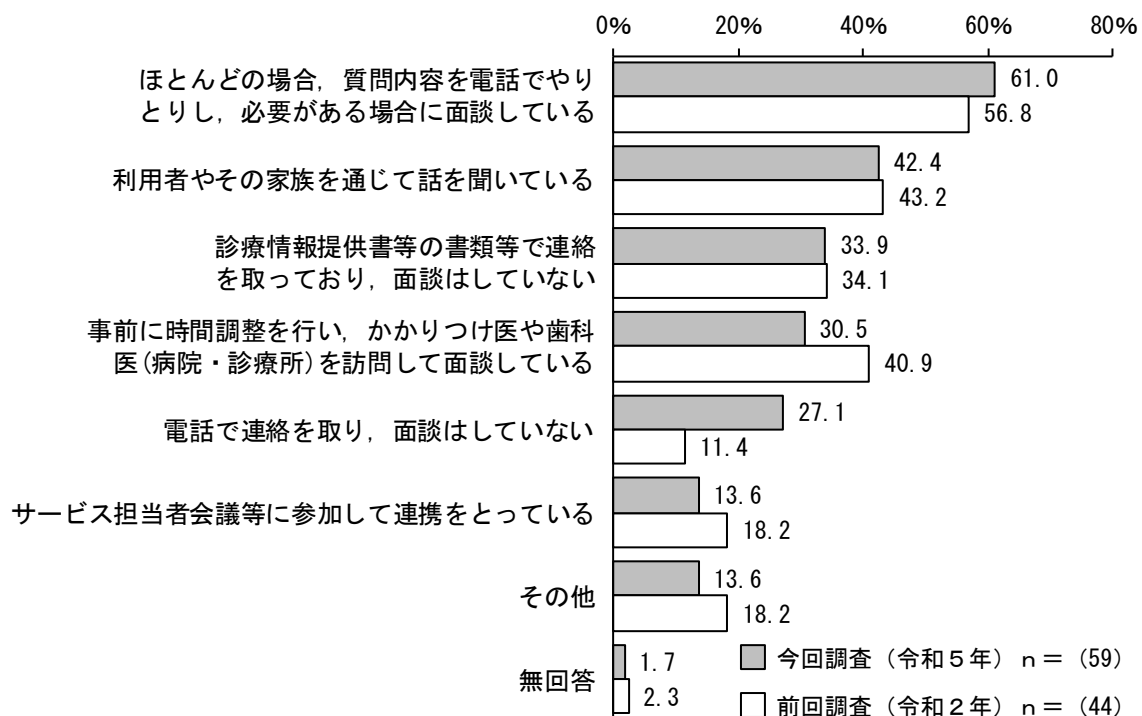
問22-1 かかりつけ医や歯科医との連携はどのような方法で行っていますか
(3つまで選択可)

問22で「(十分に連携が・どちらかという連携は) 図れていると思う」と回答した方に、連携方法について聞いたところ、「ほとんどの場合、質問内容を電話でやりとりし、必要がある場合に面談している」が61.0%で最も多く、次いで「利用者やその家族を通じて話を聞いている」(42.4%)、「診療情報提供書等の書類等で連絡を取っており、面談はしていない」(33.9%)等が続いています。

「その他」の主な回答としては、「通院や往診の際に面談」、「利用者宅での訪問に合わせて面談」、「意見照会書を郵送し返送していただく」、「電話の上FAXなど」、「MCS(メディカルケアステーション)の利用」等となっています。

前回の調査結果と比較すると、「電話で連絡を取り、面談はしていない」が15.7ポイント増加している一方、「事前に時間調整を行い、かかりつけ医や歯科医(病院・診療所)を訪問して面談している」は10.4ポイント減少しています。

【かかりつけ医や歯科医との連携方法】(複数回答)



(3) 医療との連携が図れていない理由

【問22で「あまり連携は図れていないと思う」、「まったく連携は図れていないと思う」を選択した方のみ】

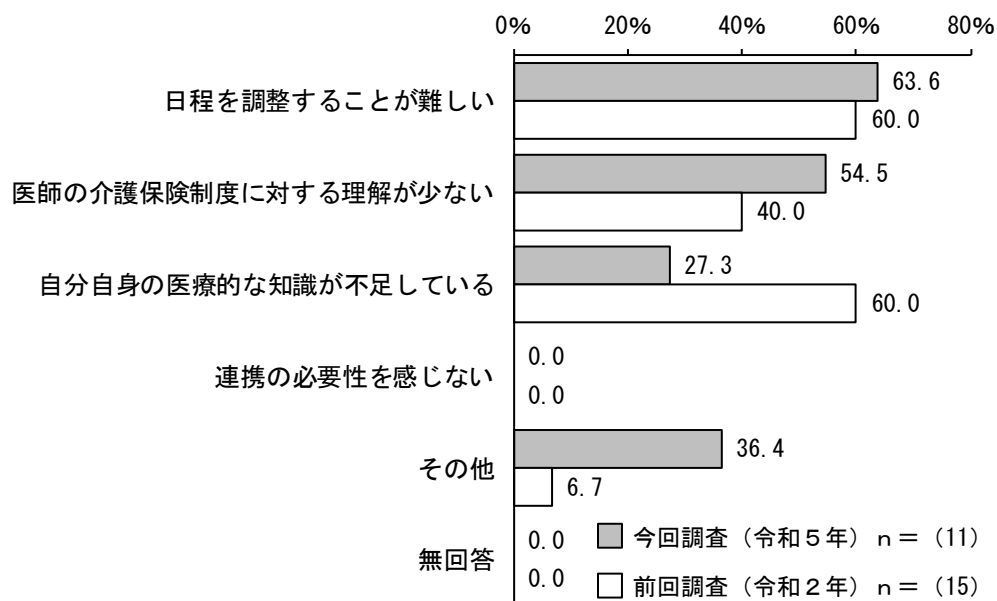
問22-2 医療との連携が図れていない理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）

問22で「（あまり・まったく）連携は図れていないと思う」と回答した方に、その理由を聞いたところ、「日程を調整することが難しい」が63.6%で最も多く、次いで「医師の介護保険制度に対する理解が少ない」（54.5%）、「自分自身の医療的な知識が不足している」（27.3%）が続いています。

「その他」の主な回答としては、「連絡しても、忙しいと言われ断られ、連絡票、FAXでのやりとりになってしまう」、「コロナで病院に行っていない」、「連携が取りづらい病院がある」等となっています。

前回の調査結果と比較すると、「自分自身の医療的な知識が不足している」が32.7ポイント減少し、「医師の介護保険制度に対する理解が少ない」は14.5ポイント増加しています。

【医療との連携が図れていない理由】（複数回答）



13 意見・要望

(1) 意見・要望

問 23 介護保険制度や保険者（国分寺市）に対してのご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください

全体で、15 件の意見・要望がありました。内容ごとに整理し、概要を掲載します。

市独自のサービスに関すること

- ・サービス付き高齢者向け住宅入居者に紙おむつ助成がないので改善してほしい。
- ・市独自のサービスの拡充（デマンド型交通サービス，乗り合い送迎サービスなど）。
- ・支援サービス時間について，1 回の入れる時間の延長ができれば，本人の望みを叶えることができる場合がある。

制度・行政に関すること

- ・高齢福祉課の各担当係の名称や業務内容が分かりづらい。
- ・介護予防ケアプランをもう少し簡素化してほしい。居宅介護サービス計画書と同じようにしていただければやすい。
- ・介護保険制度改正の際は，オンラインでの説明を継続してほしい。
- ・市役所まで行かなくても地域包括支援センターで，必要書類の受け渡しができるようにしてほしい。
- ・医師との連携のため無料で問い合わせができる書式がほしい。
- ・法改正の度に新たな必須事項が加わり仕事量が増加している。例えばBCP（事業継続計画）については，市の方針・ひな形の提供や介護予防の書式を簡素化していただければ，負担が減ると思う。
- ・国分寺市周辺の大学生たちにボランティアとして関わってもらえるようなシステムづくりをしてほしい。
- ・メディカルケアステーションのような仕組みがあるとよいと思う。

介護認定に関すること

- ・更新申請，区分変更申請の結果判定まで，時間がかかることが増えているので，改善してほしい。
- ・認定結果が軽く出てしまい，区分変更申請をするケースがかなり増えている。区分変更で介護度が変わることが多く，それについては検討してほしいと感じる。
- ・認定が期間内で決まらない場合，猶予期間を設けていただけるような取り組みがほしい。
- ・認定申請中の方が，暫定期間に支援していただける方法があると，その後の介護サービスにつなげやすくなると思う。

